

基本目標・主な施策

I 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む (学校教育)

1 学ぶ力，豊かな心，

健やかな体を育む教育の推進

2 安全で安心できる教育環境づくり



▲西の原小 生活科でのザリガニ釣り

1 学ぶ力、豊かな心、健やかな体を育む教育の推進

はじめに

子ども達の「生きる力」を育むという理念のもと、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力等の育成を重視した学習指導要領も定着してきた。各学校も自校の課題を明確にして、より高い成果のために努力をしている。

幼稚園では平成30年度から、小学校では令和2年度から、中学校では令和3年度から新学習指導要領が全面実施となる中、東京オリンピック・パラリンピックを契機に、教育の国際化の波が高まってきている。

このような中で、子ども達が心豊かで健やかに成長することを願い、個性豊かな人間形成と、生きる力の育成をめざす学校教育を展開する。

(1) 学ぶ力を育む教育の充実

①個性や能力を伸ばす教育の推進

印西市内の小・中学校では、学力向上に向けて、基礎学力向上のための取組の推進、指導方法の工夫・改善、ICTを活用した授業づくり等に取り組んでいる。

各学校ではドリルタイム（朝学習）等の時間を設定し、読書や漢字力・計算力の向上など、基礎・基本の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力の育成をめざし、個に応じた指導方法や指導体制の工夫・改善を図っている。算数・数学や英語等での少人数指導や学級編制の弾力的運用を通してきめ細かな指導等を行うため、県費教員24人を小・中学校に配置している。

また、全教職員が授業力の向上と生徒指導の機能を重視した「わかる授業」の展開をめざし、学習指導案を作成して授業研究を行っている。授業の中では共感的人間関係を基盤に、自己存在感を持たせる場面や自己決定の場면을重視する等、生徒指導の機能を重視した学習指導の充実を図っている。併せて、学習指導要領の改訂に対応した「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善に取り組んでいる。



▲研修を通して学習指導の充実を図る

さらに各学校では、千葉県教育委員会の学習サポーター事業を活用するとともに、学校支援ボランティア、学生ボランティア（順天堂大学、秀明大学、日本医科大学附属看護専門学校と連携）の積極的な活用や、秀明大学等と連携した教職インターンシップ（あすなる先生事業）を実施するなど、児童生徒へのきめ細かな指導・支援に生かしている。

②確かな学力を育むための研修の充実

ア 教職員研修の充実

ベテラン教員の大量退職と経験の浅い教員の急増により、学校現場における研修の充実は喫緊の課題である。印西市教育委員会では、教職員の研修の機会を最大限に生

かすべく、各研修会への支援をしている。
また、印西市教育センターにおいて、若年層、とりわけ講師向けの研修会を開催し、教師力向上に向けて支援の充実を図っている。

【臨時的任用・非常勤講師対象研修会】

期日 令和2年 4月20日(月)
5月18日(月)
6月24日(水)
10月20日(火)
11月18日(水)

講師 元印西市立西の原小学校教諭
山野幸子氏
印西市教育委員会指導主事 他



▲校内授業研修会での指導・助言

ウ 校内研修の支援

各学校の校内研修会では、研究主任等を中心とした実践的な研修が展開されている。授業研究を中核とし、児童生徒の実態に応じた適切な指導のあり方について研修を深めている。印西市教育委員会では、要請に応じて指導主事を学校に派遣し、指導方法や教材教具の工夫、評価のあり方等の指導助言にあたりるとともに、印西市教育センターでは授業相談支援として、日常の授業に対してのきめ細かな支援をしている。

また、初任者研修、フォローアップ研修、ステップアップ研修等の経験者研修については、千葉県教育委員会と連携して推進している。新規採用教員を対象とした初任者研修については、各学校で校内指導教員を中心とする指導助言による研修(週7時間、年間210時間)を受けるとともに、校外においては千葉県総合教育センター等における研修(年間15日)を受けている。

③教育課題への指導・支援の充実

ア 教育課題の調査・研究・開発

時代の要請を的確につかんだ教育課題、組織、体制づくり等、教育の機能向上及び各学校の効果的な研究推進を図っている。

また、教育課程の編成や指導技術、指導法の工夫改善により、児童生徒の学習効果を高めるための調査・研究及び教材等の開



▲夏季研修会「ICT研修会」

イ 指導法等の研修の充実

小・中学校や幼稚園においては、学習指導要領の趣旨や内容に則った実施のため、指導計画の作成や指導方法の工夫改善等について研修を行っている。また、小・中学校の全教職員は年に1回以上、作成した学習指導案をもとに授業実践を行っている。

市教育センターの夏季研修では、教科指導に係る研修のほか、ICTを活用した情報教育、人権教育、特別支援教育、教育相談等、今日的な教育的課題に対応した研修を実施している。

学校教育 施策の概要

発事業を行っている。

<調査・研究>

【全国学力・学習状況調査】

全国学力・学習状況調査の結果を受け、印西市として独自に分析・考察をしている。考察に基づく重点的に指導したい内容等を結果報告書にて各学校に示し、指導の改善につなげている。

【千葉県標準学力検査】

千葉県標準学力検査の結果を受け、印西市として独自に分析・考察をしている。県のデータと比較し、印西市における全学年児童生徒の基礎学力の定着状況を把握し、今後の指導に生かすための学習過程、学習内容、学習方法等の例を示した資料を各学校に提供している。



▲結果報告書

【体力・運動能力調査】

体力・運動能力調査の結果から児童生徒の現状について分析し、指導の改善に生かしている。

<研究・開発>

印西市教育センターを中心に、漢字や計算の学習コンテンツ及び社会科副読本に対応した評価テストを開発・運用し、基礎学力と学習意欲の向上を図っている。

【漢字級別認定テスト 印西漢字マスター】

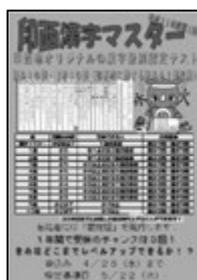
小学校3年生から中学校1年生までを対象とし、漢字力を高め、自主的に学習する態度の育成をねらいとして開発・運用している。

【計算検定 印西計算マスター】

小学校3年生から6年生までを対象とし、計算力を高め、自主的に学習する態度の育成をねらいとして開発・運用している。

【社会科副読本】

小学校中学年の社会科で学習する地域教材の副読本「わたしたちの印西市」の作成とともに、副読本に即したワークテストを開発・運用している。



▲「印西漢字マスター」「印西計算マスター」ポスター

<特色ある教育活動への支援>

個性や能力を伸ばし、次世代を担う印西の児童生徒の生きる力を育成するために、各学校の特色ある教育活動を推進している。

- オリンピック・パラリンピック教育推進校（いには野小・平賀小・印旛中）
- 体育科研究指定校（いには野小）
- 国語科研究指定校（西の原小・西の原中）
- 福祉教育推進校（木下小・大森小・印西中）
- 情報教育推進校（原山小）

イ 教育研究団体支援事業

印西市における研修の中核をなすのが、市教育研究会の活動である。この研究会は、各小・中学校の課題を持ち寄り、解決に向けて継続的な研究協議を重ね、その成果を児童生徒に還元することを目的としている。印西市教育委員会では、指導主事の派遣

等を通し、研究会を支援している。

④ 幼児教育の充実

ア 情報提供と学習機会の充実（市立幼稚園）

千葉県教育委員会と連携し、幼児教育に関する様々な情報提供を行うとともに、研修事業の紹介をしている。

イ 幼稚園・小学校・中学校の連携

各種行事や職場見学・職場体験を通して、幼稚園児と小・中学生が交流を図るとともに、各種の連絡会や研修会で、教職員同士の連携を図っている。

ウ 個に応じた教育の推進

幼児の発達段階を踏まえ、個に応じた教育を推進している。職員の質の向上も図り、特別支援教育研修会等への参加を奨励している。園内研修等を実施し、園児の実態に応じた適切な指導や環境づくりを行えるようにしている。子ども発達センターや保健センター、各事業所等と連携を図ったり、コスモスファイル（ライフサポートファイル）を活用した早期就学相談を実施したりしている。

⑤ 読書活動の推進

読書活動は、感性を磨き、豊かな人間性を培うために、欠くことができないものである。各学校では、学校司書や学校支援ボランティア、保護者等と連携を図りながら、読書活動を推進している。具体的には、朝の読書タイムの設定や読み聞かせ、学校図書館の活用の活性化を図る工夫、読書環境の整備等により、児童生徒の読書意欲の向上を図っている。

また、情報を収集し活用する能力を育成していくために、図書資料を積極的に活用する授業も行われている。

ア 学校図書館の資料の整備充実

問題解決的な学習や探究的な学習等、児童生徒の主体的な学習に対応できる図

書資料の整備を進めている。

イ 市立図書館との連携事業の開催

小・中学校の学校図書館担当者、学校司書及び市立図書館司書らで、円滑で効果的な読書活動推進の方法等について研修及び情報交換を行っている。また、読書指導や各教科及び総合的な学習の時間等において活用する資料の確保についても、市立図書館から団体貸出の協力を得ている。



▲ 学校図書館担当者会議

ウ 学校図書館の環境整備と機能の充実

ネットワーク型学校図書館システムを導入し、蔵書検索機能を活かした図書資料の有効活用を図っている。また、学校間貸出を行い、全小・中学校を一体化した蔵書の有効活用と児童生徒の学習活動や読書活動の活性化を図っている。

⑥ 国際理解教育の推進

ア 国際理解教育の推進

国際社会に生きる児童生徒にとっては日本人としての自覚を持ち、自国の文化や伝統の理解を深めながらも、異なる文化や伝統を持つ世界の人々と共生できる資質・能力を身に付けることは必要不可欠である。

印西市では、特に英語を通じて言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に努めている。

小・中学校へ週1～5日、幼稚園へ月1回、外国人指導助手（ALT）を配置し、主に

学校教育 施策の概要

授業を通して異文化や外国語に触れることを体験し、コミュニケーションを図ろうとする態度や能力を育成している。また、全小学校に英語教育コーディネーターを配置し、外国語活動及び外国語科の充実を図っている。

夏休みには、イングリッシュアカデミー ホップ・ステップ（英語の体験活動研修）を開催している。小学3・4年生対象のホップでは半日、小学5・6年生対象のステップでは1日の開催とし、児童はALTとの様々な活動を通して、外国の言語や文化に多く触れることができる。また、中学生を対象としたイングリッシュアカデミー ジャンプでは、6泊7日の日程でオーストラリアでのホームステイや交流学校の授業参加等を通じて、英語コミュニケーション能力の向上や異文化理解を深め、国際化に対応できる人材の育成を図っている。

その他、国際理解教育担当者研修会を年2回開催し、ALTの効果的な活用や小・中学校の連携についての情報・意見交換等を行い、外国語活動のあり方や外国語指導について研修を進めている。

印西市教育センターで外国語活動・英語科研修会を行っている。外国語活動及び外国語科におけるモデル授業や効果的な活動、学習意欲を高める工夫等、様々な観点からの研修を行い、児童生徒のコミュニケーション能力の向上に努めるとともに、国際理解教育の充実を図っている。



▲イングリッシュ・トレセン

（R2年度よりイングリッシュアカデミーに名称変更）

⑦特別支援教育の推進

ア 特別支援体制の充実

特別支援学級は、障害のある児童生徒一人一人に応じた教育を行うため、必要に応じて小・中学校に設置される少人数の学級であり、小学校に49学級（知的障害学級26，自閉症・情緒障害学級23），中学校に19学級（知的障害学級10，自閉症・情緒障害学級9）が設置され、336名の児童生徒が在籍している。さらに、3教室を設置している言語障害の通級指導教室には、通常の学級での学習に概ね参加でき、一部特別な指導を必要とする児童が通級している。また、令和2年度より千葉豊学校聴覚障害通級指導教室（サテライト教室）が牧の原小学校に開設された。

特別支援学級では、児童生徒の発達段階、能力、障害の状態、特性等に合わせた特別の教育課程を編成している。これを実施するにあたっては、児童生徒の実態に合わせた指導目標や内容・方法を具体化した個別の指導計画に基づいて指導をしている。多くの特別支援学級では、児童生徒の社会性を育て、好ましい人間関係を育てる視点から、通常学級の学習に参加する交流学习を教育的ニーズに基づいて実施している。

通常学級においても、特別な配慮を要する児童生徒が在籍しているため、通常学級、特別支援学級の枠を取り除いて、より柔軟

に対応できるように、学習指導員と介助員が87名配置されている。

イ 就学指導の推進

児童生徒の障害の程度から就学する学校等を決定するために、年間を通して就学相談を行っている。未就学児については、保護者に対して学校の状況や支援の内容等の情報提供に努めたり、保護者の意見等を考慮しながら学校見学や体験等を実施したりすることで、指導の充実を図っている。併せて、市では年4回の就学指導委員会を開催し、総合的な見地から判断して就学先の決定ができるようにするとともに、各学校の校内就学指導委員会と市の就学指導委員会の連携を強化し、教育上特別な支援を要する児童生徒に適切な就学指導が行われるよう努めている。

さらに、就学前から卒業後の就労までの一貫した相談体制を構築するために、関係各課（障がい福祉課・健康増進課・保育課・子育て支援課・指導課）及び関係機関との連携を軸とした具体的なネットワーク作りに取り組んでいる。



▲特別支援教育研修の様子

⑧キャリア教育の推進

印西市生き生き体験事業では、市内外の多数の事業所の協力のもと、市内の中学2年生が9月下旬から12月上旬の間に連続した2日間に職場体験を実施している。

この事業は、学校では味わえない体験ができることだけでなく、地域の方との触れ

合いを通して自らの生き方を考えたり、地域社会の一員である自覚を高めたりする上で、大きな成果をあげている。

また、小学校では、各学校の実状に合わせて、職場見学及び体験活動をキャリア教育の一環として、全学校で実施している。

(2) 豊かな心を育む教育の充実

子ども達の健やかな成長のためには、情操教育が重要である。そのため印西市では、道徳教育（倫理的情操）の充実及び心の教育（芸術的情操）の充実並びに学習環境の整備を進めている。

①情操教育の充実

ア 道徳教育の充実

印西市では、道徳科の授業を要とし、教育活動全体を通して道徳教育を推進している。道徳教育授業実践研修会を実施し、各学校の道徳教育の核となる教員の育成と資質向上を進めている。新学習指導要領に即して授業実践をし、指導力向上をねらいとした研修を行っている。

各学校では、道徳教育に関する学校の全体計画、学年の年間指導計画を立て、授業を実践するとともに、千葉県教育委員会で作成した道徳映像教材は年間指導計画に位置付けて活用している。また、「豊かな人間関係づくり実践プログラム（ピア・サポート）」については、学級活動や総合的な学習の時間に実施している。



▲豊かな心を育む道徳授業

イ 人権教育の推進

印西市では、次の3点を重点目標として、人権教育を推進している。

- 人権を尊重する教育活動を推進し、人権教育の日常化を図る。
- 教職員の人権に対する意識を高め、指導力・実践力の向上を図る。
- 学校、家庭、地域、関係機関との連携を

図る。

各学校においても人権教育の全体計画と年間計画を策定し、計画的・継続的・組織的に推進を図っている。また、いじめに関するアンケートを定期的の実施し、これに基づいた教育相談を実施している。

ウ 芸術文化体験事業の充実

<さわやかハートフルコンサートの開催>

小学校5年生と中学校代表生徒を対象に、さわやかハートフルコンサートを開催し、音楽を愛好する心や豊かな情操の育成を図っている。

【さわやかハートフルコンサート】

期日 令和2年10月21日（水）

～23日（金）

会場 印西市文化ホール

対象 小学校5年生・中学校代表生徒等

<小学校芸術鑑賞教室の開催>

小学校6年生の児童を対象に、小学校芸術鑑賞教室を開催し、狂言や落語などの古典芸能を味わい、日本の伝統芸能についての理解を深め、それらを尊重する態度の育成を図っている。

【小学校芸術鑑賞教室】

期日 令和2年12月2日（水）

3日（木）

会場 印西市文化ホール

対象 小学校6年生児童

内容 狂言・落語



▲小学校芸術鑑賞教室

②体験活動の推進

ア 体験活動の充実

<奉仕等体験活動の実施>

奉仕活動など児童生徒の直接体験は、総合的な学びの機会となるばかりでなく、豊かな心の育成や望ましい人間形成に資するものである。

各学校では、福祉施設での交流や手伝い、地域の美化作業等を教育計画に位置付けて実施している。

<自然科学体験学習等の実施>

「ひと まち 自然」が調和し、豊かで安心できる環境で暮らせるまちをめざす印西市には、里山に代表される豊かな自然環境が存在する。教育活動においても、こうした恵まれた自然環境を活用して様々な体験学習を行っている。

印西市教育センターでは、施設や周辺の豊かな自然環境を活用し、市内在住の親子を対象に自然科学体験学習を行っている。今年度は、里山観察、昆虫観察、星空観望など、年3回の講座を予定している。

<みどりの少年団活動の推進>

平成13年度、北総花の丘公園開設を記念して、市内小・中学校全校で「印西市みどりの少年団」を結成した。各学校では、みどりの少年団活動を通して、奉仕等の体験活動を積極的に教育課程に位置付け、道徳科や特別活動、総合的な学習の時間との関連を図りながら推進している。



▲「みどりの少年団」交流集会（林業体験）

③郷土愛を育む教育の推進

ア 郷土愛を育む教育の推進

各学校に「歴史資料室」を設置し、その活用を図っている。これは、学校や地域の歴史に関する資料を展示する部屋やコーナーを設置し、児童生徒、保護者、地域の方々が閲覧できるようにしたものである。

歴史の古い学校、新しい学校と違いはあるが、それぞれに工夫し、児童生徒の母校を愛する心、地域を大切に作る心を育てることをねらいとしている。併せて、保護者や地域の方々が集まったときの共通話題をつくり、地域とともに歩む、開かれた学校づくりの一助となっている。

④きめ細やかな教育支援の推進

ア 適応指導教室事業の推進

<適応指導教室の充実>

不登校で悩んでいる児童生徒や保護者を支援し、自我の確立及び集団生活への適応を図り、学校復帰の足がかりとなるように、平成7年度に印西市適応指導教室「緑のまきば」を印西市教育センター内に設置した。（印旛分室「ふれあいルームまきば」は現在休室中）

緑のまきばでは、施設周辺に広がる草深地区の自然を生かしたフィールドワークや野菜づくりをはじめ、校外学習やチャレンジスポーツなどの集団活動や行事を通して、心の教育を推進している。また、個別指導による学習時間を確保し、学校への登校復帰をめざしている。



▲緑のまきば 読み聞かせ

<適応指導教室連絡会の実施>

通室する児童生徒の学校復帰を目指し、在籍学校と情報共有を図る場として、必要に応じて連絡会を実施している。

保護者同士が情報交換をしたり、悩みへの支援・助言をしたりする場として、学期に一回、保護者会及び個人面談（対保護者・対児童生徒）を実施している。

イ 教育相談の充実

<面接相談・電話相談の充実>

交友関係の悩み、登校渋り、学校への不適応、問題行動等の教育全般について児童生徒、保護者、教職員の悩みに対応するために相談窓口の充実を図っている。

【印西市教育センター相談室】

相談員が電話や面接での教育相談を実施する。

【指導主事の電話・面接による相談】

随時、教育相談を実施する。

【子ども相談室】

教育相談員や指導主事が電話・面接での教育相談を実施する。

<不登校児童生徒等の相談の充実>

不登校、いじめの問題は、社会問題となっている。印西市においては、情報交換や教育相談の研修を充実させることで、心を育てる教育の推進を図っている。

指導主事による学校訪問では、情報交換で問題を把握し、いじめ・不登校の早期発見・早期対応・早期解消に努めている。

<関係機関との連携>

相談内容によって、学校やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、不登校対策支援チーム、医療機関等と連携し、解決に向けて支援している。様々な観点からの情報交換や関係機関との情報共有を行っている。

<訪問指導の充実>

各学校の要請により、教育相談員や学校

問題対策指導員が訪問し、関係者への相談にあたる。

<スクールカウンセラー等の活用>

市内全中学校9校、小学校3校に配置されており、児童生徒や保護者の相談を受けている。

一人でも多くの児童生徒の心に寄り添うことができるよう体制づくりを進めるとともに、家庭や地域の教育力を生かした実践を進めている。

<学校の諸問題に対する助言・指導>

学校の諸問題について広い視野を持ち、総合的見地に立って指導・助言できる学校問題対策指導員を2名配置し、学校からのニーズに応えるようにしている。

【主な支援内容】

- いじめ防止対策の支援
- 不登校対策の支援
- 児童虐待防止対策の支援
- 教育相談・適応指導教室に関わる支援
- 保護者等対応の支援
- 教育センター事業への支援
- 管理職及び教職員等の教育実践上の相談への対応等

(3) 健やかな体を育む教育の充実

① 学校体育の充実

ア 学校体育の充実

体力・運動能力調査（結果は26頁を参照）において、校種・男女別に見ると全国レベルを上回っている種目の割合は、小学校で87.5%，中学校で45.8%，男子で70.8%，女子で76.4%であり、小学校女子が全体的に高い体力・運動能力を備えているといえる。種目では特に筋力・筋持久力（握力・上体起こし）や柔軟性（長座体前屈）、走力（50m走）、瞬発力（立ち幅跳び）が全国レベルより高い傾向が見られる。一方で、校種では中学校に、種目ではボール投げに課題が見られる。

体育学習においては、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成を目指し、各種運動の特性に応じた運動理解や技能習得を重視することが求められる。各学校では、児童生徒の実態を考慮しながら、学習内容の確実な定着を図るため、ねらいや課程を明確にした授業づくりに取り組んでいる。



▲ 中学1年生 バスケットボール

< 体育主任会議，体育研修会の開催 >

中学校は年1回，小学校では年4回の体育主任会議及び研修会を開催し，学校体育経営，体育主任の役割，体育学習の見直し・改善，体力向上に向けた取組，武道学習，体育行事等に関する見識を深めている。

< 小学校駅伝競走大会の開催 >

各小学校の代表選手による駅伝競走大会を開催し，運動に親しむ資質・能力の育成及び体力の向上を図っている。

【第15回印西小学校駅伝競走大会】

期日 令和2年11月26日（木）

会場 松山下運動公園

< 大会等における順天堂大学との連携強化 >

小学校駅伝競走大会においては，選手児童との伴走や大会運営等での連携を図っている。

イ 運動部活動の充実

市内中学生の部活動加入率（文化部加入生徒も含む）はここ数年90%弱で推移し，多くの生徒が部活動に取り組んでいる。市教育委員会では，中学校部活動の適切な運営と合理的かつ効率的・効果的な活動の推進を目的に以下の事業に取り組んでいる。

< 部活動サポート事業による指導者派遣 >

専門的な知識や経験を持ち，生徒への技術指導ができる部活動サポーター（外部指導者）を各中学校に派遣している。

< 部活動補助金交付事業による経済的支援 >

生徒が行う部活動に要する経費に対し，予算の範囲内において，印西市補助金等交付規則及び印西市中学校部活動補助金交付要綱に基づき補助金を交付している。

② 学校保健衛生の充実

ア 健康教育の推進

幼児児童生徒及び教職員の健康保持増進を図るため，健康教育に必要な教材を整備し，保健指導の充実を図る。また，学校医，学校歯科医，保健師，助産師，歯科衛生士等の協力を得て指導の充実に努めている。

イ 学校保健会の活動の充実

学校保健会は，学校医，学校歯科医，学校薬剤師，校長，保健主事，養護教諭，栄養教諭，栄養士等161名で構成されている。

全体及び各部会の研修会を開催し，学校保健の推進及び調査研究に努めている。ま

た、「印西市の学校保健」と「学校保健会報（年2回）」を発行し、健康教育の普及を図っている。

ウ 健康診断の実施と事後措置の徹底

学校保健安全法に基づき健康診断を実施する。健康診断により健康状態を把握し、計画的な保健指導に努めている。

<令和2年度健康診断・保健指導事業計画>

月	事業名	対象
4～6	定期健康診断 (内科・眼科・耳鼻科・歯科)	幼・小・中
	尿検査	〃
	運動器検診	〃
	小児生活習慣病予防検診	小5・中1.3
	学校職員定期健康診断	学校職員
	心電図検査	小1.5・中1.3
	脊柱側弯症検診	小5・中1
	結核検診	学校職員
7～8	胃がん・大腸がん検診	〃
10～11	就学時健康診断	就学前児
6～3	歯科ブラッシング指導	幼・小・中
6～11	小児生活習慣病予防教室	小・中
6～3	いのちの授業・性に関する指導	小・中

エ 小児生活習慣病の予防

小児生活習慣病予防検討部会を開催し、検診結果や事後指導について検討している。また、養護教諭、栄養教諭等による予防教室・事後指導を実施し、小児生活習慣病の予防に努めている。

オ 口腔衛生事業の推進

学校歯科保健検討部会を開催し、歯科健診結果や事後指導、ブラッシング指導について検討し、歯と口の健康の充実に努めている。

カ いのちの授業・性に関する指導の充実

性に関する指導計画を作成し、医師、助産師等の外部講師を活用して、いのちの大切さや性に関する保健指導の充実に努めている。

キ 保健室機能の充実

児童生徒の心身の健康の保持増進を図るため、保健室のカウセリング機能の充実を図っている。

ク 学校環境衛生事業の推進

児童生徒が安全で快適な学校生活を送れるよう、環境衛生検査を実施し、学校環境の改善に努めている。

(保健データ27～29頁を参照)

(4) 学校給食の充実

① 学校給食の充実

ア 食に関する指導の推進

児童生徒が望ましい食習慣を身に付け、心身の健全な発達を図るために、学校給食を通じた食育を推進している。

全小・中学校では、「印西市食育ミニマム」や各学校の「食に関する指導全体計画」に基づき、教科・領域との関連を踏まえ、計画的、継続的、組織的に指導にあたっている。また、栄養教諭や学校栄養職員と教職員が連携した授業等を小・中学校で実施し、児童生徒の健康維持・増進に努めている。



▲ 栄養士による食に関する指導（小学校）



▲ 栄養士による食に関する指導（中学校）

< 食に関する指導事業計画 >

月	事業名	対象
4～5 9～12	栄養教室	小 1.3 (全校)
6～11	生活習慣病予防検診事後 指導授業	小 5・中 1 (全校)
随時	食育の授業	小 2.4.6 (希望制)
随時	食に関する指導	小・中 (全校)

イ 学校給食の充実

成長期にある児童生徒の健康の増進、体力の向上を図るために、バランスのとれた栄養豊かな学校給食を提供し、食育の生きた教材として日々活用している。栄養教諭や学校栄養職員による献立の工夫と改善や食物アレルギーの対応にも努めており、中央学校給食センターでは対応給食（卵・乳の除去食）の提供を令和元年度より開始している。

学校教育 施策の概要

令和元年度体力・運動能力調査一覧（全国比較）

【男子】

種目	校種	小 学 校						中 学 校		
	学年	1	2	3	4	5	6	1	2	3
握力 (kg)	全国	9.44	11.18	12.80	14.64	16.60	19.70	23.94	30.39	34.81
	印西市	10.27	12.11	13.22	15.05	18.19	20.80	23.77	29.19	33.50
	評価	4	5	4	4	5	4	3	2	2
上体 起こし (回)	全国	12.06	14.69	16.68	18.52	20.61	22.98	24.63	28.26	30.35
	印西市	14.08	14.88	17.86	18.88	22.41	23.22	25.55	29.91	29.36
	評価	5	3	4	3	5	3	4	5	2
長座 体前屈 (cm)	全国	25.85	27.68	30.07	31.08	33.78	35.49	39.97	45.31	47.89
	印西市	26.83	29.44	29.66	34.00	35.22	38.77	43.33	47.94	48.83
	評価	4	4	3	5	4	5	5	4	3
反復 横跳び (点)	全国	27.95	32.54	36.10	39.95	44.01	47.02	50.32	54.19	56.85
	印西市	27.58	34.47	38.83	43.17	47.16	50.30	51.94	55.33	53.22
	評価	3	5	5	5	5	5	4	4	1
20m シャトルラン (回)	全国	18.63	29.84	39.57	47.03	56.90	65.49	73.19	90.40	96.80
	印西市	23.51	34.19	43.86	47.05	56.13	62.11	72.47	92.52	90.55
	評価	5	4	4	3	3	2	3	4	2
50m 走 (秒)	全国	11.40	10.55	10.00	9.61	9.17	8.78	8.42	7.77	7.42
	印西市	10.71	10.10	9.53	9.45	8.92	8.81	8.25	7.61	7.44
	評価	5	5	5	4	5	3	4	4	3
立ち 幅跳び (cm)	全国	115.37	127.38	137.76	145.84	155.10	167.08	182.78	203.56	215.59
	印西市	119.08	131.66	145.55	147.85	161.77	172.77	185.75	203.11	207.69
	評価	4	4	5	4	5	4	4	3	1
ボール 投げ (m)	全国	8.47	12.37	16.01	19.84	23.72	27.86	18.39	21.40	24.26
	印西市	9.13	13.22	16.75	19.54	21.66	25.19	17.33	20.41	22.27
	評価	4	4	4	3	2	2	2	2	1

【女子】

種目	校種	小 学 校						中 学 校		
	学年	1	2	3	4	5	6	1	2	3
握力 (kg)	全国	8.75	10.44	12.07	13.99	16.36	19.37	21.85	24.32	25.71
	印西市	9.25	11.38	13.25	14.91	17.88	21.38	21.47	25.97	26.55
	評価	4	5	5	4	5	5	3	5	4
上体 起こし (回)	全国	11.47	13.77	15.76	17.97	19.39	21.10	21.34	24.43	25.21
	印西市	11.60	15.50	16.77	19.61	20.16	22.30	22.25	25.19	26.02
	評価	3	5	4	5	4	4	4	4	4
長座 体前屈 (cm)	全国	28.41	30.78	32.75	34.99	37.95	40.71	44.14	47.39	48.66
	印西市	30.48	32.44	33.41	37.61	41.25	46.80	43.22	50.19	52.44
	評価	5	4	4	5	5	5	3	5	5
反復 横跳び (点)	全国	26.83	31.05	34.62	38.68	42.00	44.63	46.77	48.71	49.51
	印西市	27.74	33.52	37.08	38.58	42.41	47.30	47.27	48.27	48.50
	評価	4	5	4	3	3	5	3	3	2
20m シャトルラン (回)	全国	16.16	23.07	30.41	38.64	45.58	51.19	54.07	64.45	62.66
	印西市	20.34	24.14	33.55	41.61	45.83	53.52	59.83	59.33	57.02
	評価	5	3	4	4	3	4	4	2	2
50m 走 (秒)	全国	11.72	10.90	10.34	9.85	9.50	9.12	8.93	8.59	8.53
	印西市	11.11	10.46	10.09	9.69	9.31	8.91	8.86	8.65	8.48
	評価	5	5	4	4	4	4	1	3	3
立ち 幅跳び (cm)	全国	109.07	118.66	129.44	141.10	148.01	158.54	168.32	176.45	177.11
	印西市	109.68	128.58	135.80	146.83	150.16	165.36	166.11	174.13	180.94
	評価	3	5	5	4	4	5	2	2	4
ボール 投げ (m)	全国	5.81	7.59	9.91	13.32	14.74	16.80	12.09	13.92	14.65
	印西市	6.22	8.75	11.25	11.75	13.47	16.60	10.86	12.25	13.80
	評価	4	5	5	2	1	3	1	1	2

* 評価の数値は、Tスコア(偏差値)により5段階で評価したもの

5・4 全国レベルより高い 3 全国レベル並み 2・1 全国レベルより低い

* 全国平均は、平成30年度平均

* ボール投げは、小学校がソフトボール投げ、中学校がハンドボール投げ

令和2年度学校環境整備事業計画

月	事業名	対象	月	事業名	対象
5～6	配膳室定期検査	小・中	6～7	学校給食施設定期衛生検査	各学校給食施設
	照度・照明環境検査	幼・小・中			
	プール水質検査	小・中	8	飲料水水質検査	幼・小・中
6～7	ダニアレルゲン検査	幼・小・中	1～2	照度・照明環境検査	幼・小・中
	空気環境検査（ホルムアルデヒド・揮発性有機化合物）	幼・小・中		空気環境検査（二酸化炭素・二酸化窒素）	幼・小・中

令和元年度印西市学校保健会事業報告

年月日	事業名	内容	参加者	会場
平成31年 4月23日(火)	栄養士部会(第1回)	事業計画について	栄養教諭 学校栄養職員等	印旛学校給食センター
4月25日(木)	学校薬剤師部会(第1回)	H30年度第2回事業報告 H31年度実施計画	学校薬剤師	印西市役所
令和元年 5月17日(金)	養護教諭部会(第1回)	班別研修	養護教諭	印西市役所
5月29日(水)	学校保健会理事会	事業・決算報告及び事業・予算計画の 審議	学校医、学校歯科医、学校 薬剤師、校長、養護教諭、 保健主事、栄養教諭等	印西市役所
6月12日(水)	学校保健会報編集会議 (第1回)	第130号の発行について	養護教諭、栄養教諭等	印西市役所
6月21日(金)	保健活動部会(第1回)	アレルギー対応給食について アレルギー対応指針・マニュアルについて	養護教諭、栄養教諭等	印西市役所
6月28日(金)	養護教諭部会(第2回)	班別研修	養護教諭	印西市役所
7月3日(水)	アレルギー対策検討会	学校におけるアレルギー対応について	学校医、アレルギー専門医 師、校長、消防組合、学校 給食センター、養護教諭等	印西市役所
7月16日(火)	学校歯科保健検討部会 (第1回)	歯科保健指導実施状況報告 フッ化物洗口について	学校歯科医、歯科衛生士、 養護教諭	印西市役所
8月2日(金)	養護教諭部会(第3回)	班別研修	養護教諭	ふれあいセンターいんば
8月2日(金)	講演会	リフレッシュ講座	養護教諭、栄養教諭等	ふれあいセンターいんば
8月23日(金)	栄養士部会(第2回)		栄養教諭 学校栄養職員等	印旛学校給食センター
9月18日(水)	感染症対策検討会(第1回)	インフルエンザ治癒証明書の取り扱いに ついて	学校医、校長、園長、養護 教諭他	印西市役所
11月14日(木)	学校検尿第3次精密検査 結果報告会	講演会	養護教諭他	印西市役所
11月27日(水)	感染症対策検討会(第2回)	インフルエンザ以外の感染症 り患時治療証明書の取り扱い について	学校医、校長、園長、養護 教諭他	印西市役所
12月5日(木)	学校薬剤師部会(第2回)	令和元年度第1回事業報告 令和元年度第2回実施計画	学校薬剤師	印西市役所
12月9日(月)	学校保健会報編集会議 (第2回)	第131号の発行について	養護教諭、栄養教諭等	印西市役所
12月13日(金)	養護教諭部会(第4回)	勉強会:感染症対策講習会 班別研修	養護教諭	印西市役所
令和2年 1月17日(金)	保健活動部会(第2回)	療養報告書の運用状況について 食物アレルギー対応指針の変更について	養護教諭、栄養教諭等	印西市役所
1月31日(金)	小児生活習慣病予防検討 部会	実施報告		印西市役所
2月5日(水)	アレルギー対策検討会	学校におけるアレルギー対応について		印西市役所
2月18日(火)	学校歯科保健検討部会 (第2回)	歯科保健指導実施状況報告	学校歯科医、歯科衛生士、 養護教諭	印西市役所

学校教育 施策の概要

令和元年度児童生徒定期健康診断集計表（小学校）

区分	小学校	男 6歳	男 7歳	男 8歳	男 9歳	男 10歳	男 11歳	男計	男 %	女 6歳	女 7歳	女 8歳	女 9歳	女 10歳	女 11歳	女計	女 %	男女 合計	男女 %
	在籍者数	578	548	567	550	549	542	3,334		564	561	558	536	520	531	3,270		6,604	
裸眼視力検査	受検者数	560	531	533	494	476	445	3,039	91.2%	548	530	515	471	421	405	2,890	88.4%	5,929	89.8%
	1.0未満0.7以上の者	50	45	41	46	51	35	268	8.8%	54	54	47	45	45	46	291	10.1%	559	9.4%
	0.7未満0.3以上の者	24	24	51	46	73	60	278	9.1%	26	27	49	65	67	61	295	10.2%	573	9.7%
	0.3未満の者	2	9	14	20	18	18	81	2.7%	4	7	21	13	20	21	86	3.0%	167	2.8%
	※裸眼視力省略の者	16	17	33	50	72	92	280	8.4%	15	31	41	63	99	124	373	11.4%	653	9.9%
眼の検査	受検者数	568	0	0	539	0	0	1,107	33.2%	549	0	0	520	0	0	1,069	32.7%	2,176	32.9%
	感染性眼疾患の者	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0.0%
	その他の眼疾患・異常の者	116	0	0	126	0	0	242	21.9%	93	0	0	93	0	0	186	17.4%	428	19.7%
聴力検査	受検者数	573	542	564		548		2,227	99.3%	563	561	555		520		2,199	99.8%	4,426	99.6%
	難聴の者	4	2	5		1		12	0.5%	8	3	2		1		14	0.6%	26	0.6%
耳鼻咽喉頭の検査	受検者数	571	535	0	0	539	0	1,645	49.3%	554	557	0	0	511	0	1,622	49.6%	3,267	49.5%
	耳疾患の者	84	46	0	0	48	0	178	10.8%	82	58	0	0	41	0	181	11.2%	359	11.0%
	鼻・副鼻腔疾患の者	91	86	0	0	88	0	265	16.1%	55	38	0	0	41	0	134	8.3%	399	12.2%
	口腔咽喉頭疾患の者	6	6	0	0	1	0	13	0.8%	3	3	0	0	0	0	6	0.4%	19	0.6%
歯の検査	受検者数	574	544	558	538	542	529	3,285	98.5%	557	552	549	522	515	521	3,216	98.3%	6,501	98.4%
	処置完了の者	85	111	144	156	132	103	731	22.3%	75	94	139	128	122	83	641	19.9%	1,372	21.1%
	未処置歯のある者	121	93	119	79	89	46	547	16.7%	99	94	78	73	71	33	448	13.9%	995	15.3%
	COのある者	70	91	63	55	60	57	396	12.1%	63	79	67	61	59	47	376	11.7%	772	11.9%
	歯列・咬合 1の者	32	62	74	62	65	70	365	11.1%	39	70	84	61	68	72	394	12.3%	759	11.7%
	歯列・咬合 2の者	13	15	22	11	17	10	88	2.7%	9	21	12	11	16	12	81	2.5%	169	2.6%
	顎関節 1の者	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	1	0	1	0.0%	1	0.0%
	顎関節 2の者	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0.0%
	歯垢の状態 1の者	46	59	87	76	102	85	455	13.9%	37	49	53	69	100	72	380	11.8%	835	12.8%
	歯垢の状態 2の者	9	6	9	15	15	16	70	2.1%	5	13	9	2	12	3	44	1.4%	114	1.8%
	歯肉の状態 1の者	17	35	60	63	68	75	318	9.7%	26	35	40	53	65	72	291	9.0%	609	9.4%
	歯肉の状態 2の者	5	4	5	14	17	18	63	1.9%	2	8	5	8	13	10	46	1.4%	109	1.7%
	その他の疾病の者	23	24	17	30	66	38	198	6.0%	28	15	28	44	53	50	218	6.8%	416	6.4%
	DMF歯数	D(永久歯の未処置歯数)							19	19							28	28	
M(永久歯の喪失歯数)								4	4							5	5		9
F(永久歯の処置歯数)								86	86							113	113		199
尿検査	受検者数	575	547	565	543	547	539	3,316	99.5%	564	560	543	535	516	528	3,246	99.3%	6,562	99.4%
	蛋白陽性の者	5	0	2	2	3	14	26	0.8%	5	6	7	5	15	12	50	1.5%	76	1.2%
	潜血陽性の者	1	0	0	3	3	2	9	0.3%	4	2	4	1	4	4	19	0.6%	28	0.4%
	糖陽性の者	0	0	0	3	0	1	4	0.1%	0	0	1	0	2	1	4	0.1%	8	0.1%
寄生虫卵	受検者数							0								0		0	
	寄生虫卵保有の者							0								0		0	
その他の疾病等の検査	受検者数	578	548	568	549	549	543	3,335	100.0%	565	561	559	538	521	532	3,276	100.2%	6,611	100.1%
	栄養不良の者	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	1	1	0	2	0.1%	2	0.0%
	肥満傾向の者	1	1	13	11	11	4	41	1.2%	1	4	8	8	4	4	29	0.9%	70	1.1%
	脊柱側弯の者	1	2	1	0	0	1	5	0.1%	1	1	1	2	7	14	26	0.8%	31	0.5%
	その他の脊柱・胸郭・四肢の異常の者	3	2	2	0	1	1	9	0.3%	0	1	0	0	2	1	4	0.1%	13	0.2%
	感染性皮膚疾患の者	2	6	0	2	0	1	11	0.3%	0	5	1	0	0	0	6	0.2%	17	0.3%
	アトピー性皮膚炎の者	45	56	45	61	50	41	298	8.9%	43	49	45	55	53	52	297	9.1%	595	9.0%
	心臓疾患・異常の者	4	4	3	5	3	3	22	0.7%	4	4	2	5	2	3	20	0.6%	42	0.6%
	ぜん息の者	41	42	44	52	54	39	272	8.2%	37	40	39	35	25	27	203	6.2%	475	7.2%
	腎臓疾患の者	4	0	0	3	0	0	7	0.2%	0	0	2	1	0	1	4	0.1%	11	0.2%
	結核検査	問診実施者数	578	548	568	549	549	543	3,335	100.0%	565	561	559	538	521	532	3,276	100.2%	6,611
・問診票から 要検討者数		5	4	0	3	2	1	15	0.4%	6	2	1	2	0	3	14	0.4%	29	0.4%
学校医による診察実施者数		5	4	0	3	2	1	15	0.4%	6	2	1	2	0	3	14	0.4%	29	0.4%
要精密検査の者		4	4	0	2	2	1	13	0.4%	4	1	1	2	0	3	11	0.3%	24	0.4%
精密検査実施者数		4	4	0	2	1	2	13	0.4%	3	1	0	2	0	1	7	0.2%	20	0.3%
(精密検査)胸部X線検査実施者数		3	4	0	2	1	2	12	0.4%	3	1	0	1	0	1	6	0.2%	18	0.3%
(精密検査)喀痰検査実施者数		0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0.0%
(精密検査)その他の検査実施者数		0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0.0%
潜在性結核感染症の者		0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0.0%
結核の者		0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0.0%
肥満の状況 (村田式による)	受検者数	577	548	567	545	549	539	3,325	99.7%	564	561	557	534	520	530	3,266	99.9%	6,591	99.8%
	高度肥満(肥満度 \geq 50%)	0	1	7	5	1	2	16	0.5%	1	1	5	3	2	2	14	0.4%	30	0.5%
	中等度肥満(50% $>$ 肥満度 \geq 30%)	7	8	16	25	23	19	98	2.9%	9	8	15	12	9	11	64	2.0%	162	2.5%
	軽度肥満(30% $>$ 肥満度 \geq 20%)	9	15	16	14	18	35	107	3.2%	12	19	15	18	17	23	104	3.2%	211	3.2%
	やせ(-20% \geq 肥満度 $>$ -30%)	0	1	4	11	18	19	53	1.6%	0	4	6	13	15	15	53	1.6%	106	1.6%
高度のやせ(-30% \geq 肥満度)	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0.0%	

※「裸眼視力省略の者」は、「裸眼視力検査」の「受検者数」に含まない。

令和元年度児童生徒定期健康診断集計表（中学校）

区分	中学校	男 12歳	男 13歳	男 14歳	男計	男 %	女 12歳	女 13歳	女 14歳	女計	女 %	男女 合計	男女 %
	在籍者数	467	455	449	1,371		429	417	453	1,299		2,670	
裸眼視力検査	受検者数	355	316	332	1,003	73.2%	304	260	250	814	62.7%	1,817	68.1%
	1.0未満0.7以上の者	39	25	30	94	9.4%	30	37	33	100	12.3%	194	10.7%
	0.7未満0.3以上の者	39	53	54	146	14.6%	48	42	42	132	16.2%	278	15.3%
	0.3未満の者	11	20	29	60	6.0%	20	20	12	52	6.4%	112	6.2%
	※裸眼視力省略の者	108	131	113	352	25.7%	124	156	200	480	37.0%	832	31.2%
眼の検査	受検者数	453	0	0	453	33.0%	423	0	0	423	32.6%	876	32.8%
	感染性眼疾患の者	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0.0%	0	0.0%
	その他の眼疾患・異常の者	63	0	0	63	13.9%	60	0	0	60	14.2%	123	14.0%
聴力検査	受検者数	463		441	904	98.7%	428		450	878	99.5%	1,782	99.1%
	難聴の者	2		1	3	0.3%	2		0	2	0.2%	5	0.3%
耳鼻咽喉頭の検査	受検者数	453	0	0	453	33.0%	423	0	0	423	32.6%	876	32.8%
	耳疾患の者	46	0	0	46	10.2%	42	0	0	42	9.9%	88	10.0%
	鼻・副鼻腔疾患の者	61	0	0	61	13.5%	30	0	0	30	7.1%	91	10.4%
	口腔咽喉頭疾患の者	2	0	0	2	0.4%	1	0	0	1	0.2%	3	0.3%
歯の検査	受検者数	458	431	430	1,319	96.2%	425	410	441	1,276	98.2%	2,595	97.2%
	処置完了の者	65	73	75	213	16.1%	59	90	104	253	19.8%	466	18.0%
	未処置歯のある者	31	40	41	112	8.5%	31	34	31	96	7.5%	208	8.0%
	COのある者	44	57	73	174	13.2%	65	83	79	227	17.8%	401	15.5%
	歯列・咬合 1の者	53	57	67	177	13.4%	68	55	72	195	15.3%	372	14.3%
	歯列・咬合 2の者	38	34	36	108	8.2%	35	37	35	107	8.4%	215	8.3%
	顎関節 1の者	2	1	1	4	0.3%	0	0	1	1	0.1%	5	0.2%
	顎関節 2の者	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0.0%	0	0.0%
	歯垢の状態 1の者	61	63	52	176	13.3%	55	57	47	159	12.5%	335	12.9%
	歯垢の状態 2の者	20	25	36	81	6.1%	14	23	22	59	4.6%	140	5.4%
	歯肉の状態 1の者	68	69	65	202	15.3%	47	65	64	176	13.8%	378	14.6%
	歯肉の状態 2の者	30	30	51	111	8.4%	22	19	28	69	5.4%	180	6.9%
	その他の疾病の者	22	19	8	49	3.7%	14	13	5	32	2.5%	81	3.1%
DMF歯数	D(永久歯の未処置歯数)	27			27		47			47		74	
	M(永久歯の喪失歯数)	0			0		0			0		0	
	F(永久歯の処置歯数)	102			102		127			127		229	
尿検査	受検者数	463	446	435	1,344	98.0%	425	412	444	1,281	98.6%	2,625	98.3%
	蛋白陽性の者	13	32	22	67	5.0%	10	6	16	32	2.5%	99	3.8%
	潜血陽性の者	1	3	2	6	0.4%	13	8	10	31	2.4%	37	1.4%
	糖陽性の者	0	0	0	0	0.0%	0	0	1	1	0.1%	1	0.0%
寄生虫卵	受検者数												
	寄生虫卵保有の者												
その他の疾病等の検査	受検者数	466	453	449	1,368	99.8%	429	418	452	1,299	100.0%	2,667	99.9%
	栄養不良の者	0	0	0	0	0.0%	2	0	1	3	0.2%	3	0.1%
	肥満傾向の者	4	4	7	15	1.1%	2	0	3	5	0.4%	20	0.7%
	脊柱側弯の者	9	11	7	27	2.0%	26	31	46	103	7.9%	130	4.9%
	その他の脊柱・胸郭・四肢の異常の者	7	9	8	24	1.8%	3	5	6	14	1.1%	38	1.4%
	感染性皮膚疾患の者	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0.0%	0	0.0%
	アトピー性皮膚炎の者	56	58	59	173	12.6%	52	38	43	133	10.2%	306	11.5%
	心臓疾患・異常の者	4	3	3	10	0.7%	1	2	3	6	0.5%	16	0.6%
	ぜん息の者	35	37	36	108	7.9%	26	26	16	68	5.2%	176	6.6%
	腎臓疾患の者	1	3	1	5	0.4%	0	0	0	0	0.0%	5	0.2%
結核検査	問診実施者数	466	454	446	1,366	99.6%	429	418	452	1,299	100.0%	2,665	99.8%
	・問診票から 要検討者数	1	2	0	3	0.2%	0	1	0	1	0.1%	4	0.2%
	学校医による診察実施者数	1	2	0	3	0.2%	0	1	0	1	0.1%	4	0.2%
	要精密検査の者	1	2	0	3	0.2%	0	1	0	1	0.1%	4	0.2%
	精密検査実施者数	1	2	0	3	0.2%	0	1	0	1	0.1%	4	0.2%
	(精密検査)胸部X線検査実施者数	1	2	0	3	0.2%	0	1	0	1	0.1%	4	0.2%
	(精密検査)喀痰検査実施者数	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0.0%	0	0.0%
	(精密検査)その他の検査実施者数	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0.0%	0	0.0%
	潜在性結核感染症の者	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0.0%	0	0.0%
	結核の者	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0.0%	0	0.0%
肥満 やせ の状況 (村田式による)	受検者数	463	446	445	1,354	98.8%	428	416	450	1,294	99.6%	2,648	99.2%
	高度肥満(肥満度 \geq 50%)	4	4	7	15	1.1%	2	0	3	5	0.4%	20	0.8%
	中等度肥満(50% $>$ 肥満度 \geq 30%)	18	18	10	46	3.4%	8	11	7	26	2.0%	72	2.7%
	軽度肥満(30% $>$ 肥満度 \geq 20%)	17	14	15	46	3.4%	20	16	26	62	4.8%	108	4.1%
	やせ(-20% \geq 肥満度 $>$ -30%)	19	11	11	41	3.0%	27	16	9	52	4.0%	93	3.5%
高度のやせ(-30% \geq 肥満度)	0	0	0	0	0.0%	2	0	1	3	0.2%	3	0.1%	

※「裸眼視力省略の者」は、「裸眼視力検査」の「受検者数」に含まない。

2 安全で安心できる教育環境づくり

(1) 教育環境整備の充実

① 学校・幼稚園施設の充実

ア 安全な学校・幼稚園施設等の充実

<小・中学校の大規模改修事業等>

- 牧の原小学校校舎増築に係る設計
- 木刈中学校校舎増築に係る工事
- 滝野中学校校舎増築に係る設計

<管理・教材備品等の整備>

児童生徒の学習用机・椅子の老朽化に伴い、児童生徒の体格の変化や教科書の大型化などに対応した新 JIS 規格の机・椅子を計画的に更新する。また、教育用パソコンや楽器を計画的に整備・更新していく。

② 就学援助の充実

経済的理由により就学困難と認められる児童生徒及び特別支援学級に就学する児童生徒の保護者に対し、就学援助を行い、義務教育の円滑な実施を図る。

(2) 学校の適正規模・適正配置の推進

① 学校の適正規模・適正配置の推進

児童生徒のより良い教育環境を整え、教育の質の向上を図るため、印西市学校適正規模・適正配置基本方針に基づき、学校の適正規模・適正配置を推進する。

(3) 学校安全の推進

① 安全教育の充実

ア 安全教育の充実

交通事故や不審者等による犯罪、自然災害等に対し、自ら身を守ることでできる児童生徒の育成を図るとともに、自他の生命の尊重を中核として、児童生徒が生涯を通じて、健康で安全な生活を営む基礎を養う

教育の充実を図るため、以下の取組を実施している。

<交通安全教室の実施>

全ての公立幼稚園、小・中学校で実施しており、安全な歩行、横断歩道の渡り方、自転車の正しい乗り方等を学習している。

<防犯教室の実施>

全ての公立幼稚園、小・中学校で実施しており、不審者対応、薬物乱用防止、ネットトラブル、サイバー犯罪防止等を学習している。



▲小学校 交通安全教室

<避難訓練の実施>

緊急時に児童生徒が適切な避難行動をとることができるようにするため、各学校では地震、火災、不審者侵入などの様々な状況を想定した訓練を行っている。また、一次避難行動に特化したワンポイント避難訓練や引き渡し訓練等も計画的に実施している。

イ 児童生徒・園児の安全確保

各学校では防災計画の作成や定期的な施設・設備の安全点検等、以下のような取組を行うとともに、安全主任研修会等を通して安全教育の充実を図っている。

- 防災計画・学校安全マニュアルの見直しと定期的な施設点検の実施に関する指

導・助言

- 防犯ブザーの貸与（小学新入生対象）
- 自転車通学用ヘルメット貸与（小中学新入生対象）
- メール配信システムの活用（幼・小・中学校等）
- 防災行政無線を活用しての見守り活動の推進（児童の声）
- 安全主任等研修会の開催
- こども110番の家の推進
- 台風・雷雨・竜巻等自然災害対応安全指導の充実
- 理科薬品の安全管理の指導

ウ 通学路の安全確保

通学路の安全を確保するために、各学校・関係諸団体の協力を得ながら危険箇所を抽出し、警察・道路管理者等と連携しながら対応している。平成26年2月に策定した「印西市通学路交通安全プログラム(平成27年2月改定)」に基づき、全小学校区単位で通学路の点検を実施し、通学路の安全性の向上を図っている。

また、全小学校区で安全マップを作成・配付している。

エ 学校管理下における災害共済給付

学校管理下において児童生徒に災害が発生した場合の対応として、日本スポーツ振興センター災害共済給付制度への加入を図っている。

(4) 開かれた学校づくり

①開かれた学校づくりの推進

ア 学校情報公開と地域の連携

全小・中学校でホームページを運用し、学校広報の充実に努めている。教育センターでは、ホームページ運用や編集操作に関する助言を随時行い、各学校が積極的に情報を発信できる環境整備と支援を行っている。



▲市内小・中学校ホームページの例

また、教育センターでは各学校ホームページの記事を拾い上げ、各学校の取組等を教育センターのホームページに掲載したり、各学校における式典、競技大会、修学旅行等を一括して紹介したりなど、学校間の取組の共有化を図っている。

さらに地域においては、産業や芸術分野で地域人材を積極的に活用するとともに、家庭や地域との連携を深める中で、新たな人材を開発している。産学官連携にも努め、印西市ならではの人材活用

学校教育 施策の概要

に心がけている。

各学校では自ら学校運営を改善し、その教育水準の向上を図るとともに、保護者や地域住民等の理解と参画を得て学校づくりを進めていくために、学校評価を実施し、評価結果及び考察については、文書やホームページで公表している。また、地域参観日や公開授業にも積極的に取り組み、地域への学校公開を積極的に推進している。



▲印西市教育センターホームページ画像

(5) 情報化社会に対応した教育の推進

① 教育関係資料の収集・活用・教育広報

教育センターでは、最新教育情報の資料収集、学校への資料提供、教育関係の資料・書籍・情報誌・映像等の収集・蓄積・活用を行っている。

また、学校間グループウェアを利用し、学校運営や各教科の指導のあり方等を各学校へ情報提供するとともに、学校同士での情報交換の場と活用している。指導案をはじめとした教育情報を蓄積、データベース化することで、活用の促進を図っている。

教育センターのホームページでは、「学びの里通信」を毎日更新し、センターの事業内容や各小・中学校の最新の情報を公表している。その他、定期的に発行する教育センターだよりを通して、各学校の取組を広く紹介したり、教育情報を広報したりしている。



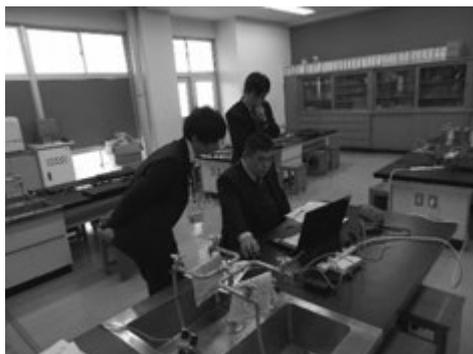
▲デジタル職員室

② 情報教育及び ICT 活用の推進

学校教育活動における ICT 活用充実のため、タブレット PC や無線 LAN といった ICT 関連の環境整備を図っている。小・中学校では、平成 22 年度から校務システムを整備し、教育委員会が登録した校務 PC のみが教育系のネットワークやサーバーへ接続可能となる設定をしている。主な活用事例としては、グループウェアによる学校・職員・教育委員会間での情報共有、学籍・成績・保健等の情報管理及び校務処理、保護者等向け一斉配信メールシステム、学校ホームページの編集などで、教育活動の質の向上と業務の効率化をサポートしている。職員一人一人にアカウント及び役職に応じたネットワーク上の権限を設定し、情報セキュリティを考えた適切な管理に努めている。今後も、さまざまな情報を一元管理しながら、データの蓄積と集約された情報の多様な分析・再利用をするとともに、帳票等の文書の電子化を推進し、一層の校務の合理化と効率化、教育の質の向上、情報管理の徹底を図りたい。また、印西市小・中学校セキュリティポリシーを制定し、管理職対象の研修会で定期的に周知を図るとともに、セキュリティポリシーは市内教職員がいつでも閲覧可能な箇所に保存している。



▲校務システム

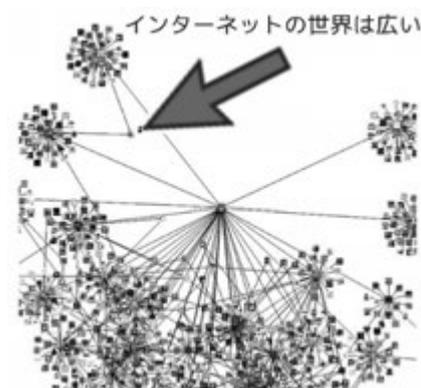


▲校務システム研修会

学校図書館システムを導入し、児童生徒の読書活動の推進を図っている。各学校間をネットワークで結び、本の管理をすることで、貸出業務の円滑化、適正な管理をしつつ、必要な書籍を学校の壁をこえて貸し出すことができるよう仕組みを整えている。そして、本システムを運用するために、学校図書館担当者及び学校司書を対象とした、定期的な研修会を実施している。

こうした情報化ネットワーク全般については、印西市教育センターによる電話・出張サポート、教職員向け出前講座の実施、IT 関連会社からの講師の派遣等を行い、よりきめ細かな指導や助言、環境整備が可能となるよう努めている。

情報モラル教育については、児童生徒や保護者を対象とした SNS 等対応ネットリテラシー出前授業を指導主事が行い、情報社会の特性の理解と併せて、日常モラルを指導し、情報社会に参画する児童生徒の望ましい態度育成に努めている。また、教職員の ICT 活用指導技術の向上ねらいとした研修会を実施するとともに、各学校の校内研修に指導主事を派遣し、指導・助言を行っている。



▲ネットリテラシー出前授業から

印西市教育センター 学びの里

印西市教育センターは、印西市の特色を生かし、新しい時代に対応した教育を展開するため、学校への支援活動を行い、本市教育の充実・発展をめざす。

具体的には、教育に関する諸問題についての調査・研究・開発や、教育の情報化の推進、教育情報の収集、活用、提供等を行う。また、教育相談活動及び適応指導、教職員研修の場として学校支援を行う。



▲ 本センター（そうふけふれあいの里3階）

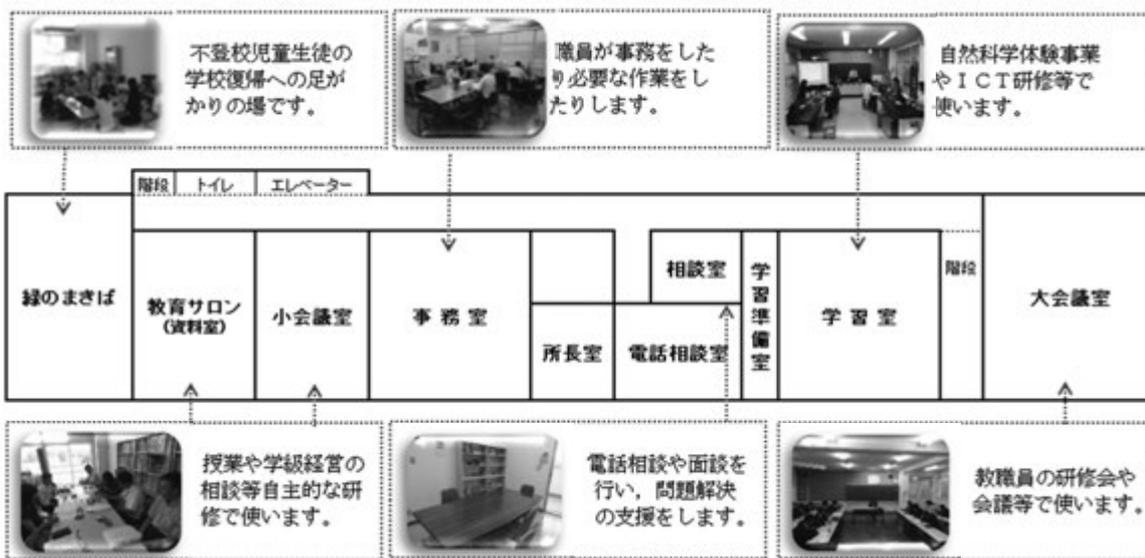
所在地 印西市草深924

開設 平成17年4月1日

電話 0476-47-0400

FAX 0476-47-6644

H P <http://inzai.ed.jp/newcenter/>



事務室	職員が業務を行う。大型プリンターを使い学校現場の掲示物を作成する。
所長室	講師接待・来客接待に使用する。必要に応じて所長が業務を行う。
緑のまきば	緑のまきばの児童生徒が学習やフリータイム、食事等で使用する。
教育サロン	図書や資料を保存する。小会議や授業・学級経営相談支援事業で使用する。
電話相談室	児童生徒、保護者、教職員に対しての電話による相談で使用する。
相談室	児童生徒、保護者、教職員に対しての面談による相談で使用する。
学習室	職員研修や自然科学体験で使用する。緑のまきばの児童生徒の授業で使用する。
小会議室	小会議や授業・学級経営相談支援事業で使用する。
大会議室	人数の多い研修や会議で使用する。緑のまきばの児童生徒が室内運動で使用する。

<事業内容>

① 教育課題調査・研究・開発事業

- 新しい時代のための教育に関する調査・研究・開発
- 教育の機能, 各校の効果的な研究を推進するための調査・研究・開発
- 各種コンテンツの開発・運用
 - ・印西漢字マスター・印西計算マスター
 - ・社会科副読本
 - ・「ふるさと印西(仮)」教材開発

② 自然科学体験学習事業

- 親子(児童生徒・保護者)対象の自然観察会
- 産学官連携科学講座

③ 各種研修会開催事業

- 夏季研修会・対象者研修会の実施

④ 教育の情報化推進事業

- 情報教育の推進
- 教育の情報化における環境整備・運用・活用・支援・研修
- 校務・教科指導におけるICT活用支援



▲SNS等対応ネットリテラシー出前授業

⑤ 読書活動推進事業

- 図書システムによる蔵書点検
- 学校間貸出
- 学校司書の全校配置
- 司書連絡会・学校図書館担当者会議実施
- 市立図書館との連携

⑥ 資料収集・活用, 教育広報事業

- 教育関係の資料の収集・蓄積・活用
- 最新教育情報の資料収集
- ホームページ等での情報提供

⑦ 教育相談事業

- 不登校, いじめ, 学習困難, 発達障害, 問題行動など, 教育活動全般についての悩みや心配事についての助言・援助(保護者・児童生徒・教員対象)
- 電話相談・面接相談

[電話番号 0476-47-7830]



▲電話相談

⑧ 適応指導教室事業「緑のまきば」

- 心理的・情緒的要因で登校しない, 登校できないで悩んでいる児童生徒の居場所の確保及び学校復帰への足がかり
- 自主的な学習支援・小集団での活動(ゲーム・軽スポーツ等)・フィールドワーク・個別面談・校外学習等の実施

[電話番号 0476-47-2422]

⑨ 授業・学級経営等相談支援事業

- 授業への相談支援
- 学級経営への相談支援
- 校内研究への支援
- 研究発表への支援
- 学校問題対策指導員による支援

⑩ その他

- いじめ防止パンフレットの配付
- 「みどりの少年団育成事業」の推進 等



▲いじめ防止パンフレット

学 校 給 食

学校給食は、成長期にある児童生徒にバランスのとれた栄養豊かな食事を提供することにより、健康の保持増進を図るとともに、望ましい食習慣を身につけ、好ましい人間関係の育成や児童生徒の心身の健全な発達など、多様な目的をもっている。

通じて健康で充実した食生活が送れるように児童生徒に対して栄養バランスのとれた食事や、正しい食習慣を理解させるなど、望ましい食生活の基礎・基本を養うとともに、地域や家庭との連携をとりながら学校給食の充実を図っていく。

《学校給食の目標》

- (1) 適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ること。
- (2) 日常生活における食事について、正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、望ましい食習慣を養うこと。
- (3) 学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養うこと。
- (4) 食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることについての理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- (5) 食生活が食にかかわる人々のさまざまな活動に支えられていることについての理解を深め、勤労を重んずる態度を養うこと。
- (6) 我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めること。
- (7) 食料の生産、配分及び消費について、正しい理解に導くこと。

《よりよい給食をめざして》

学校給食は、学校教育の中において特別活動に位置づけられ、望ましい食習慣の形成、あるいは食事を通して好ましい人間関係の育成を図るなど、重要な活動として定着してきている。

食生活が豊かになった反面、食生活の変化や栄養のアンバランスが見られる中、生涯を

《給食センター概要》

○ 中央学校給食センター

(コスモスキッチン)

所在地 印西市鹿黒南一丁目5番地

敷地面積 11,333.19㎡

開設 平成29年8月

調理能力 6,000食



○ 牧の原学校給食センター

所在地 印西市牧の原二丁目5番地

敷地面積 6,000.1㎡

開設 平成8年4月

調理能力 3,500食



○ 印旛学校給食センター

所在地 印西市美瀬二丁目2番地
敷地面積 3,602㎡
開設 平成5年4月
調理能力 2,000食



《給食の状況》

○ 調理方式

＜センター方式＞

- ・中央学校給食センター（小学校11校の調理・配送及び配膳業務を委託）
- ・牧の原学校給食センター（中学校9校の調理・配送及び配膳業務を委託）
- ・印旛学校給食センター（小学校7校の調理・配送及び配膳業務を委託）

○ 給食数（令和2年5月1日現在）

【中央学校給食センター】

第1調理場 小学校 6校 2,670食

第2調理場 小学校 5校 2,316食

【牧の原学校給食センター】

中学校 9校 3,009食

【印旛学校給食センター】

小学校 7校 2,385食

○ 給食費

	月額
小学校	4,620円
中学校	5,140円

○ 給食実施予定回数

小・中学校190回



▲調理風景

○ 給食施設の見学

児童及び家庭教育学級による保護者の施設見学を受け入れる。

施設の見学、概要説明及び試食を行い、家庭教育学級ではこれに加えて、児童生徒に必要な栄養量や生活習慣など栄養士による食に関する全般の講義を行い、給食事業への理解を図る。

また、中央学校給食センターでは、給食レストランとして市民の方を対象に施設の見学、概要説明及び給食の試食を行い、学校給食事業への理解を図る。



▲コスモスキッチン 見学通路



▲コスモスキッチン ランチルーム

木下小学校



校長	増田 賢一
開校	明治6年
学級数	12 (2)
児童数	280名
職員数	県費 20名 市費 8名

(令和2年5月1日現在)

学校教育目標

自らの可能性に挑戦する活力あふれる木下っ子の育成

1 経営方針

目指すべき学校像や子どもの姿を明確にした学校づくりを通して、地域から愛され信頼される学校、保護者から感謝される学校、子どもや教職員が誇れる学校を創る。

そのために、活力あふれる子どもの育成、チーム木下の一員として一致協働体制がとれる教職員集団の構築、開かれた学校づくりを推進する。

2 本校の特色

「木下」は、かつて木材を切り出して利根川に下ろし、江戸に運んだことから由来する地名であり、江戸時代から三社詣での拠点として栄えてきた。北に利根川、筑波山、西には富士山を望むことのできる本校は、今年で開校148年目を迎える。校歌にも歌われている「丘の上なる我らの学校」は長い歴史と文化の中で、まさに地域に支えられ育まれてきた学校である。そのような地域に根ざした本校の特色の一つが、地域との連携を生かした教育活動である。

本校は、地域から学ぶ社会科学習のあり方に焦点をあて、地域素材の教材化に努めてきた。

これらの研究を通じて培ってきた「地域の先生」の活用を社会科だけでなく総合的な学習の時間や各教科の中で幅広く推進している。

また、令和元年度より千葉県から福祉教育推進校の指定を受け、印西市社会福祉協議会木下支部と連携した学習活動を展開している。



▲5年総合「木下クリーン大作戦」の様子

3 研修の概要

(1) 研修テーマ

児童の意欲を高め、正しく読み取る力を育む国語科教育

(2) 研修の目的 <国語科>

国語科において、児童の意欲を高め、正しく読み取る力を育むためにどのような手立てが有効なのかを明らかにする。

(3) 目指す児童像

教材文との出会いから読むことへの意欲をもち、対話を通して自分の力で正しく読み取ることができる児童

小林小学校



学校教育目標

自ら学び心豊かに
たくましく生きる子どもの育成
— 自立と共生ができる子ども —

1 経営方針

「次世代を担う人間性豊かで社会の変化に主体的に対応できる子どもの育成」をめざし、創意と活力のある学校づくりに努める。

教職員は、「子どもたちを活躍させ、よいところをほめていく」ために全力を傾ける。

地域や児童の実態を確実に把握し、保護者、地域の期待に応える教育を推進する。

2 本校の特色

利根の流れをのぞむ「ひこち山」に建つ本校は、緑豊かな自然に囲まれ、創立146年の歴史と伝統のある学校である。

昭和38年に全国で初めて結成した少年少女消防隊も57年目となる。平成28年3月には、特に優秀な少年少女消防クラブとして総務大臣賞を受賞している。隊員は高学年の有志によって結成され、現在は、運動会で操法を披露したり、校内で火災予防の啓発活動を行ったりするなどし、本校の伝統をしっかりと受け継いでいる。



校長 石川真樹子
開校 明治7年
学級数 8(3)
児童数 210名
職員数 県費17名
市費 6名

(令和2年5月1日現在)

「笑顔いっぱいの学校」「あいさついっぱいの学校」「思いやりいっぱいの学校」を目指し、全校一丸となって取り組んでいる。また、目指す児童像に「かしこく」「やさしく」「たくましく」をあげ、小林の自然や、地域の人々とのふれあいを大切にしたい体験活動や、縦割り活動を通して、思いやりの心、コミュニケーション能力の育成に努めている。さらに、地域や家庭、関係機関との連携、小林中学校区3校の小中連携・小小連携を推進しながら、地域に信頼される学校づくりに努めている。

3 研修の概要

(1) 研究主題

『基礎基本を身につけ
主体的に取り組む児童の育成』
少人数指導を生かした算数科授業を通して

(2) 研究の内容（本年度の取り組み）

- ①少人数指導を生かした授業体制の工夫
- ②学習内容を理解するための導入の工夫
- ③学習内容の着実な定着をはかるための継続的な反復学習の確保
- ④算数科に主体的に取り組むための環境整備



▲ 少年少女消防隊

大森小学校



学校教育目標

豊かな心を持ち、自ら学び、
たくましく生きる子どもの育成
～気づき 考え 行動する子～

1 経営方針

「21世紀を担う人間性豊かで、社会の変化に主体的に対応できる子どもの育成」をめざし、学校教育の充実に努めるとともに、教育のプロフェッショナルであることを自覚し、教師としての自信と誇りを持って創意工夫をして教育活動にあたる。

2 本校の特色

本校は今年127周年を迎える。本校の前身である発作小学校と亀成小学校は明治7年に創設され合併移転を繰り返し、明治26年7月14日に「大森小学校」として創立された。この日を記念し毎年7月14日を創立記念日として式典が行われている。

地域の学校として歩んできた本校は、平成16年に改築された。校舎は、地域の願いから昭和初期の校舎を模写し、近代風に建築されている。近代設備を活用し、ホームページ制作や体育・音楽活動が大変盛んである。三世代同居も多く、祖父母も本校の卒業生であることから、学校への関心が高く、教育活動に大変協力的である。地域の教育資源を生かし、児童の徳・知・体のバランスのとれた教育活動を推進している。



校長	伊東 洋樹
開校	明治26年
学級数	7(2)
児童数	186名
職員数	県費 16名 市費 5名

(令和2年5月1日現在)

3 研修の概要

(1) 研修のテーマ

児童の意欲を高め、
「わかった」「できた」と実感する授業作り
～ユニバーサルデザインの視点を生かした
国語科「読むこと」の指導の工夫～

(2) 研修の基本方針

大森小学校の目標は「豊かな心を持ち、自ら学び、たくましく生きる子どもの育成」「気づき 考え 行動する子」という児童像を目指している。自信を持たせるための今年度の重点は「し・お・あ・じ」の浸透である。全ての児童に、基礎基本の理解と習得を目指すために「ユニバーサルデザイン」の視点を積極的に取り入れる。

(3) 研修の重点目標

①学び合う楽しさを知り、できた達成感やわかる喜びなどの学びの手応えを感じ取ることで、主体的に学習に取り組もうとする児童の育成(学びに向かう力・人間性)

<手立て>

- ・生徒指導の機能を生かした授業
- ・つまずきを想定した明確な授業

②自分の考えをわかりやすく表現し、話し合いを通してよりよい考えに高めることができる児童の育成(思考力・判断力・表現力)

<手立て>

- ・表現方法の工夫
- ・発表方法の工夫

船穂小学校



学校教育目標

変化する時代を見すえ たくましく生きる
心豊かな児童の育成

1 経営方針

(1)めざす児童像「『ふなほ』に向けて歩む子」

- ①ふ～深く考え、確かな学力のある子
- ②な～仲よくし、思いやりのある子
- ③ほ～朗らかで、健康なたくましい子

(2)めざす教師像「おまつり教師」

【面白い・まめ・強い・リラックス】

(3)めざす学校像「時代の変化の先を行く学校」

- ①児童の笑顔が輝き、未来を見すえて進む学校
- ②配慮がいき届き、環境で児童を育む学校
- ③様々な方々から広く協力をいただき、連携し児童を育む学校

2 本校の特色

本校は、印西市南西部の千葉ニュータウン地区や八千代市に隣接する。下総台地と印旛沼につながる谷津が入り組む地域にある。田・畑・果樹園などの農地や山林が多く、住宅地は少ない。緑に囲まれた自然豊かな地域にある。

現在、国が提唱する「Society 5.0」に対応した教育実践の土台づくりをすすめている。児童がタブレット端末でソフトウェアを使いこ



校長	岸 祐尚
開校	明治6年
学級数	4 (2)
児童数	35名
職員数	県費 11名 市費 2名

(令和2年5月1日現在)

なし、学習活動を充実させていくこと。また、通信ネットワークで情報を取捨選択しながら活用すること。これらの体験をすることで、現代の社会において不可欠な情報活用能力を身に付けさせるようにしている。

また、児童の豊かな心を育むことをねらい、地域の方々の協力による体験も、数多く行っている。

少人数の良さを生かして、教職員が様々な面で児童にきめ細かな指導をしている。一人一人の児童が、できることの喜びを感じる付加価値の高い教育「premium education」に取り組んでいる。

3 研究の概要

(1) 研究テーマ

論理的に考えながら、
課題を解決していく児童の育成

(2) 研究内容

- ① 多くのプログラミング教材での授業研究
- ② 教えるねらいと教材との適合性を検討



▲職員集合写真

内野小学校



学校教育目標

学びを生かし、豊かな心とたくましく生きる力を備えた子どもの育成

1 経営方針

『やさしい子』『かしこい子』『たくましい子』をめざす児童像としている。新安全で安心な学校づくりに努める。学習指導要領に則った「生きる力」の学力観のもと、児童の実態に合った適切な教育課程を編成し実施に努める。人権尊重の精神を掲げ、児童の自主性・自律性を育て、充実した学校生活の実現に努める。日々の教育実践を定期的に検証し、意図的・計画的・継続的な教育活動の積み上げることで、これらの実現を図る。また、地域に開かれた学校経営を推進し、保護者および地域住民の期待と信頼に応える。

2 本校の特色

昭和59年、千葉ニュータウン中央エリアの街開きと同時に開校し、本年度37年目を迎えた。市内のニュータウン地区では、最初に開校した小学校である。開校当初から植樹が盛んに行われ、春には桜が見事に咲き誇り、初夏には紫陽花、秋には紅葉と四季折々の変化を味わうことができる。

平成18年度には、校内研究の成果が認められ「学校保健」文部科学大臣表彰を受け、平成25年度には、第10回全国小学校ホームページ大賞に選ばれた。



校長	澤根 孝之
開校	昭和59年
学級数	15 (5)
児童数	455名
職員数	県費 31名 市費 9名

(令和2年5月1日現在)

保護者の学校教育への支援は協力的であり、登下校の見守り活動や読み聞かせ・図書ボランティア等を実施している。

児童の読書活動推進と思考力向上のために、朝の会の前に読書の時間(月・木)とスキルタイム(火・水・金)を設けている。また、午後の授業前に15分間のパワーアップタイムを設け、多岐にわたる教育活動を柔軟に行っている。【45分～60分の授業展開も可能】

3 研修の概要

(1) 研修テーマ

主体的に取り組み、学び合う算数科学習をめざして

(2) 研究仮説

表現する力を身につければ、主体的に取り組むことができ、学び合いが深まるだろう。

(3) 研修内容

- ・表現する力を育てるための手立てや場の設定を工夫する。
- ・問題把握・解決方法の確認や提示の仕方の改善を図る。
- ・個に応じた支援の方法を研鑽する
- ・発表の仕方の工夫・改善をする。
- ・聞き方のポイントを知らせ、そこをおさえて話が聞けるようにする。
- ・発問の仕方・内容の工夫をする。
- ・児童が互いの意見を聞き合い、学び合える指導方法の工夫と改善を図る。

木刈小学校



学校教育目標

心豊かに、自ら学び、
たくましく生きる子どもの育成

1 経営方針

- ① 「豊かな心」「健やかな体」「確かな学力」のバランスのとれた教育活動の推進。
- ② 全職員の協働体制「チーム木刈」による学校づくり
- ③ 教師は「授業で勝負」を合い言葉にした授業力の向上
- ④ 安全・安心な学校、地域に開かれた信頼される学校づくりの推進

2 本校の特色

本校は創立37年目である。戸建て中心の住宅地域である木刈小地区と、田畑の広がる永治小地区が平成29年度に統合し、ニュータウン地区と昔ながらの地区の両方の特色を兼ね備えた学校区であり、教育活動や教育内容の深まりに力を入れている。

日々の学校生活では、「みんななかよし、そうじをしっかりと、あかるいあいさつ、じかんをまもる」をめあてとしている。特に掃除とあいさつを重点として、きれいな校舎の中に明るくあいさつができるよう日々指導している。



校長 關 智之
開校 昭和59年
学級数 18(2)
児童数 584名
職員数 県費27名
市費11名

(令和2年5月1日現在)

学習指導では、昨年度まで取り組んできた算数科の研修を生かし、本年も高学年を対象に習熟度別学習等、児童の実態に合わせた教育を継続し、さらに、本年より国語科を研修教科とし、「読み」の力を中心とした国語力の伸長を図っていく。

PTA 活動も活発で、作文・標語・広報紙の部で多くの賞をいただいている。また、読み聞かせ・図書ボランティア、防犯、高齢者交流などの場面で様々な活動を地域と一体となって進めている。

3 研究の概要

(1) 研究主題

<国語科>

読む活動を基に自分の考えを表現する
児童の育成
～対話を通して思考力、表現力を高める指導方法の工夫～

本年度より、上記の主題を設定し国語科の授業研究を進めていく。

(2) 研究日程

- 4月 研究推進委員会（毎月実施）
- 5月 研究主題・内容検討
- 6月 第1回授業研修会
- 10月 第2回授業研修会
- 11月 印西市教育研究会授業公開
（第3回授業研修会を兼ねる）
- 1月 次年度研修の方向性検討
- 2月 研究のまとめ作成

原山小学校



校長	松本 博幸
開校	平成元年
学級数	10 (2)
児童数	243名
職員数	県費 20名 市費 4名

(令和2年5月1日現在)

市の情報教育推進校として、特色ある取り組みを進めている。

知・徳・体の調和のとれた「つよい子」「やさしい子」「きりりかがやく子」を目指す児童像に掲げ、明るい挨拶が響く学校を目指している。

学校教育目標

夢を抱きたくましく生き抜く人づくりをめざして

1 経営方針

個に応じた指導の充実に努めることにより、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、豊かな人間性とたくましい体を育む教育を推進し、それらを基に、自ら学び自ら考える力など、21世紀を拓く「生きる力」の育成を目指していく。

2 本校の特色

本校は、平成元年4月に開校し、32年目を迎える。千葉ニュータウン中央駅圏の南東部に位置し、高層住宅に囲まれている。学校を中心に周囲1km以内の範囲が学区である。校庭が広く、屋根付き相撲場や100m走路、アスファルトの中庭を有している。

原山小の朝は、読書タイムで始まる。さらに、保護者ボランティアや職員による読み聞かせを実施し、読書の推進を図っている。

基礎基本の確実な定着を図るために、「きりりタイム」の設定、ICTの活用、「原山っ子ノート(家庭学習帳)」の充実に努めている。また、心の教育に重点を置き、礼儀や規範意識をまとめた「心が輝く原山っ子七ヶ条」により、人間性豊かな原山っ子の育成に努めている。本校では体験を通した学びも重視し、地域の人や自然との交流等、学年に応じた様々な体験活動を実施している。

3 研修の概要

(1) 研修テーマ

教科横断的な視点での単元・授業デザインの工夫 ～カリキュラムマネジメントと情報活用能力の育成～

(2) 研修内容

- ①情報活用能力の明確な設定(学年体系化)。
- ②情報活用能力の育成のためのカリキュラムデザイン。
 - i) 教科横断的な視点による教育内容の組織的配列
 - ii) 単元・授業のデザイン
 - iii) 人的・物的資源の活用デザイン
- ③PDCAサイクルの確立。
 - 各種データ等に基づいた編成・実施・評価



▲学習の様子(伝え合い・表現)



▲6年ユニカル交流会

高花小学校



校長 高塚 啓子
 開校 平成3年
 学級数 12(2)
 児童数 302名
 職員数 県費22名
 市費 5名

(令和2年5月1日現在)

安心・安全で信頼される学校づくりに努めており、保護者と連携を図りながら、パトロールや美化活動、運動会・マラソン大会などの教育活動を進めている。また、地域の高齢者クラブと昔の遊びやユニカルでの交流やボランティアによる校内環境整備、地域の方による放課後の学習支援「花マル教室」等の協力をいただいている。

学校教育目標

社会の変化に対応できる 心豊かで心身ともに たくましい子どもの育成

1 経営方針

- ◎学校教育目標の具現化をめざし、「生きる力」を育むための創意あふれる教育課程を編成し、学力の保障と発達課題への適切な指導・支援を組織的に行う。
- ◎学校の教育活動を通じて、児童、職員がそれぞれに人権感覚を磨き、成長を実感できる学校づくりを行う。

2 本校の特色

本校は千葉ニュータウン中央駅の南東に位置し、周囲には団地や住宅地が広がっている。敷地内には緑が多く、樹木や花に囲まれた中で、子ども達はのびのびと学校生活を送っている。

笑顔でのあいさつ運動、子どもを主体とした縦割り活動を行い、思いやりのある「やさしい子」の育成に努めている。

また、基礎・基本の定着を図るとともに、特別な支援を必要とする児童に対しては、全体で共通理解を図りながら、一人一人に合わせた指導をしている。

3 研修の概要

(1) 研修テーマ

「わかる喜び」「学ぶ楽しさ」を実感できる学習指導のあり方

(2) 研修内容

- ①授業(単元)の中に、楽しみながら、興味をもって語彙(使える言葉)を増やせる手立てを意識的に取り入れる。
- ②授業(単元)の中で、子ども達が「言葉を増やすことの楽しさ」や「自分の語彙力の伸び」を実感できるような振り返りを行う。



▲音楽フェスティバル

小林北小学校



学校教育目標

心豊かで、進んで学ぶ、丈夫な子の育成

1 経営方針

「すべては子ども達のために、全教職員の協働体制による学校運営」をスローガンに、

◆目指す児童像◆

- 「き」気持ちのやさしい子
- 「たっ」たっぷり運動する子
- 「こ」根気よく学ぶ子 を掲げ、
全職員一丸となって教育活動に取り組む。

2 本校の特色

JR小林駅から徒歩7分、みどり豊かで閑静な新興住宅地に立地し、平成3年度に小林小から分離開校し、本年度、創立30年目を迎える。子ども達は広い校舎、広いグラウンドでのびのびと学校生活を送っている。

また、子どもの安全・安心を守る「小林子ども守り隊」をはじめとする保護者や地域の方々による積極的な活動が展開され、教育環境を優先した地域コミュニティづくりがすすめられており、地域の中で子ども達が育まれている。

本校は、教育活動における「質の向上」を目指し、重点目標として、「あいさつ・そうじ」「学習習慣の定着」「体力向上・安全」に重点的に取り組んでいる。



校長	池田 真一
開校	平成3年
学級数	6(2)
児童数	167名
職員数	県費 13名 市費 7名

(令和2年5月1日現在)

◆教育活動の特色◆

『笑顔かがやく北っ子合い言葉』の「あ・そ・べ」(あいさつ・返事、そうじ、勉強)が定着しつつあり、さまざまな教育活動の場面で子ども達と確認し合っている。

3 研究の概要

(1) 研究主題

考える楽しさのある算数科学習
～「問い」の共有に着目して～

(2) 研究内容

- ①「学びのステップ」のそれぞれの学習場面において、児童が主体的に取り組み、考える楽しさのある学びとなるように働きかけを工夫する。
- ②『思考し、表現する力を高める実践モデルプログラム』を活用し、問題解決的な学習過程を実践する。
- ③新たなことに気づいたり、考えの良さを認め合ったりすることができるように、話し合いの目的をはっきりさせる。



▲2年生 生活科「町探検」

小倉台小学校



学校教育目標

豊かな心を育み、自ら学び、
たくましく生きる子どもの育成

1 経営方針

- (1) 知徳体のバランスのとれた教育活動の推進
- (2) 「授業を第一に」を合言葉に学力の向上
- (3) 職員全員による協働体制と人材育成
- (4) 安全・安心で開かれた学校づくりの推進
- (5) 学校全体の業務の見直しと勤務環境の整備

2 本校の特色

本校は、千葉ニュータウンの開発に伴い、平成3年に開校し今年度30年目を迎える。千葉ニュータウン中央駅から北へ徒歩10分の位置にある。学校の周辺には、大型の商業施設や図書館等の公共施設、公園などがあり、快適な住環境の中にある。北総開発鉄道や国道464号線が整備され、成田空港や東京までの交通の利便性に富み、7年連続で住みよさランキング1位に選ばれたこともある、発展の著しい地域である。近年、駅南側の宅地開発が進み、児童数が1176名と北総地区で最大規模の学校となっている。

校舎は、サーカスのようなテントで覆われ、テント下ではさまざまな活動ができ、子ども達に夢を与えている。校内には、里山をコンセプトとして造られた「ふれあいの里」があり、3つの池と水田があり、池と池を結ぶ小川が流れている。植物や野鳥が観察でき、児童は自然の四季を体感しながら学習に取り組むことができる。



校長	池亀 節雄
開校	平成3年
学級数	34 (5)
児童数	1176名
職員数	県費57名 市費11名

(令和2年5月1日現在)

保護者の学校教育への関心は高く、父母と教職員の会を中心とした保護者や地域の方々により、交通安全指導や図書ボランティア活動が進められている。近年、特に児童数の増加により登下校の安全確保を積極的に進めている。知・徳・体の調和のとれた教育活動を中核に、小倉台小の合言葉「そうすあじ」(掃除で気づく、歌声響け、すつきり整とん、明るいあいさつ、時間を守る)を掲げ、指導と実践の一体化を図っている。また、はげみタイム、読書タイム(読書貯金)等を教育課程に取り入れ、新学習指導要領の実施に伴った特色ある学校づくりを進めている。

3 研修の概要

(1) 研修テーマ

思考力・表現力を高める学習指導のあり方

(2) 研修内容

- ①国語科を中心とした授業研究会の実施
- ②新学習指導要領における国語科の理論研修
- ③各教科主任の公開授業による指導技術研修
- ④あすなる研修(若年層研修)の充実
- ⑤年間を通した計画的なモラールアップ研修の実施による不祥事根絶意識の醸成



▲国語科 学習風景

西の原小学校



学校教育目標

強い体・豊かな心・生きる知恵を学びとる
活気に満ちた子どもの育成

1 経営方針

- 知徳体のバランスがよく、子ども・保護者・地域から信頼される教育活動の展開
- 常に前向きに改善を進め、子ども・保護者・地域から信頼される教育活動の展開

2 本校の特色

本校は、千葉ニュータウンの第19住区の小学校として、平成6年に創設された。学区は、印西市西の原1丁目、2丁目、3丁目、4丁目、草深の一部から成り、通学に適した範囲にある。近くに北総開発鉄道の印西牧の原駅があり、中高層マンションや一戸建て住宅地が多いが、自然環境にも恵まれている。4丁目（学校に隣接した地区）の宅地造成が進み、児童数は増加傾向にある。保護者は東京方面へ通勤する会社員が大半である。全体的に若い世代の保護者が多い。教育に関する関心は高く、学校行事等にも積極的に参観・協力する保護者が多い。平成22年度に保護者と教職員の会の組織を改変して「西の原っ子応援団」として積極的に活動を行っている。

令和2年度は、次の重点7項目を設定し、学校づくりを進めている。



校長	門脇 英貴
開校	平成6年
学級数	17（4）
児童数	564名
職員数	県費 29名 市費 8名

（令和2年5月1日現在）

- ①「生きる力」を育むための創意ある教育
- ② 全員参加型の学校運営
- ③ 学び高め合う研修の充実
- ④ 安心・安全な教育環境
- ⑤ 地域に根ざした学校作り
- ⑥ 教育活動充実のための働き方改革
- ⑦ 学校評価の改善と活用

3 研修の概要

（1）研究主題

自分の考えを深め、表現する児童の育成

（2）研究の視点

- ① 相手や目的に応じた表現様式を意識させ、効果的に書くための手立てを言語活動に位置付けることを通して、深い学びを促し、自分の考えを表現する力を育成する。
- ② 学校図書館や資料等を活用して情報を集め、相手や目的に応じて情報を選び、関係付けることを通して、自分の考えを形成する力を育成する。
- ③ 授業と連動した表現する力を高める短時間学習や他教科・日常において書く習慣を身に付けさせるような活動を意図的・計画的に行うことを通して、自分の考えを表現するための基盤づくりをする。

（3）研究内容

- ・国語科授業研究会及び日々の授業実践を通し授業改善に取り組む。
- ・読書・言語環境・スキルアップの観点から日常的に言葉に触れ、言葉に親しむ場の設定に全校で取り組む。

六合小学校



学校教育目標

やさしく かしく たくましい子どもの育成

1 経営方針

「子どもが主役の夢を育む学校の創造」

○徳・知・体の調和の取れた人間性豊かな児童の育成を目指す。

○相互協力を大切にし、全員参加の学校経営に努める。

○地域に根ざした開かれた学校づくりを目指す。

2 本校の特色

本校の名称ともなっている「六合」は、瀬戸・山田・吉高・萩原・松虫・平賀の6地区の合併に由来している。創立以来、六合村立、印旛村立、印西市立と改称はしているが、148年の伝統を誇る。敷地内には、樹齢の古い木々が茂り、地域の自然の豊かさを物語っている。印旛沼方面から見ると緑の広がりの中にオレンジ色のとんがり帽子の校舎が垣間見える。昭和54年に改修された鉄筋の校舎は、当時としてはモダンなものであった。この頃の児童は、今では保護者として学校に協力していただいている。まさに、何世代にわたって地域に支えられ育まれてきた学校であるといえる。



校長	友野 吉弘
開校	明治6年
学級数	6 (2)
児童数	75名
職員数	県費 15名 市費 3名

(令和2年5月1日現在)

また、校庭には芝生が広がり、全天候型の100m走路をもち、児童の体力向上に一役かっている。

さらに、青少年赤十字(JRC)加盟校として、「明るいあいさつのできる子」「考え行動することのできる子」の育成をめざし、学校全体で取り組んでいる。

3 研修の概要

(1) 研修主題

数学的な見方・考え方を身に付けた児童の育成
～「学び合いが楽しい!」といえる児童の姿を目指して～

(2) 研究仮説

①答えや課題解決の方法の見通しをもって活動に取り組ませることで、数学的な見方を養うことができるだろう。

②児童が考えを伝え合うことで学び合ったり、よりよく問題解決できたことを実感したりする機会を設ければ、考えが広がったり深まったりし、数学的な考え方を養うことができるだろう。



▲幼小交流「ともだち集会」



▲ブラインドサッカー体験

平賀小学校



校長	石川 昭彦
開校	平成2年
学級数	6 (2)
児童数	100名
職員数	県費 13名 市費 5名

(令和2年5月1日現在)

学校教育目標

よく学び 心豊かで
たくましい子どもの育成

1 経営方針

- (1) すべては子ども達のために取り組み、「生きる力」を育む。
- (2) 『良い生活習慣』を身につける。
- (3) 『良い学習習慣』を身につける。
- (4) 教職員は、質の高い指導力を備え、何よりも子どもに信頼される人間であるよう、研究と修養に励む。
- (5) 教育活動が、計画的、継続的、組織的に推進され、信頼される魅力ある学校をつくる。

2 本校の特色

本校は、印旛地区東部にあたり印西市の最も東部に位置している。農村部である平賀地区と新興住宅地である平賀学園台からなる。

県立印旛特別支援学校と隣接しており、両校の間の「交流門」を通して、昼休みや授業交流など年間を通した地に足をつけた交流活動を行っている。また、順天堂大学も学区内にあり、「1年生歓迎遠足」として場所を提供していただいている。

児童数は、平賀地区児童が約29%、平賀学園台地区児童が約71%で、減少傾向にある。児童は、礼儀正しく、縦割り班活動・異校種交流を通

して、やさしい心と行動がともなってきた。保護者は教育への関心と熱意が強く、また学校への理解と協力を惜しまない。

3 研修の概要

(1) 研究主題

思考力・表現力を伸ばしていく授業のあり方
—主体的・協動的な学習を通して—

(2) 研修内容

研究の視点

○主体的な思考の視点

〈多面的思考を促すアプローチの仕方〉

- ・導入の工夫
- ・教材、教具の工夫
- ・授業の展開や発問の工夫

〈批判的思考を促すアプローチの仕方〉

- ・聞く力を育てるための視点の明確化
- ・既習事項を確認し、比較する場の設定

○表現活動の視点

- ・話し方や考え方の型の提示
- ・表現活動を活発にする教具の活用
(発表用のホワイトボードや書画カメラなど)
- ・ペアやグループなど小グループでの
言語活動の場の設定

いには野小学校



学校教育目標

『心豊かに 進んで学び
たくましく生きる子どもの育成』

1 経営方針（めざす学校像）

- ① いつも元気いっぱい
全力でがんばる子どもがいる学校
- ② にこにこ笑顔で
友だちを大切にし いじめのない学校
- ③ 「はい」と進んで発表
主体的に学ぶ子どもがいる学校
- ④ のびる力
それぞれのよいところが きらり輝く学校

2 本校の特色

本校は、千葉ニュータウンの一番東側に宅地造成された地区に開校し、今年度21年目を迎える。一戸建てやマンションが林立する住宅地と、緑豊かな自然環境を学区に持ち、学校・駅・公園・道路等にバリアフリー化が図られた高齢者などに優しい環境にある。また、昨年度より宗像小学校と統合し、市内で最も学区が広い小学校となった。

校舎は、オープンスペースを生かし、多様な教育活動に対応できるような構造となっている。また、校内には印旛沼に生息する水生植物や生物を擁するビオトープが整備され、児童は自然の生態系を体感しながら学習に臨むことができる。

児童の安全・安心を守るための登下校時の安全



校長	増田 洋子
開校	平成12年
学級数	15（4）
児童数	466名
職員数	県費 29名 市費 9名

（令和2年5月1日現在）

指導や、教育環境の向上を目指した花植えや草刈りなどの環境整備、図書室の整備や読み聞かせなど、地域や保護者の方々からは大きな支援をいただいている。これらを生かし、

- ① 学力の向上
- ② 情操教育の推進
- ③ 体力の向上
- ④ 特別支援教育の推進
- ⑤ 積極的な生徒指導の推進
- ⑥ 地域社会との共生

に特に力を入れて取り組んでいく。



▲オリパラ体験授業



▲いにはのまつり

3 研修の概要

（1）研修テーマ

運動の楽しさや喜びを味わい、
共に高め合う児童の育成

（2）研修内容

令和元年度より、小中体連の指定を受け、「わかった」「できた」を実感し、自分の能力を高めることができる児童の育成を目指し、体育科の指導法について研究を進めていく。

滝野小学校



校長	平山 和宏
開校	平成9年
学級数	13 (3)
児童数	417名
職員数	県費23名 市費 7名

(令和2年5月1日現在)

学校教育目標

夢を抱き、
心豊かに、自ら学び、
たくましく生きぬく児童の育成
「やさしく」「かしこく」「たくましく」

1 経営方針

チーム滝野として全職員の英知と行動力の結集により、児童の創造力を引き出し、夢を育む教育活動の実践

- (1) 県教委、市教委の指針、施策等に基づき、知徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成
- (2) 全職員が滝野小学校の職員であるという自覚と責任のもとに、児童一人一人の個性を生かし、愛情と情熱を持ったきめ細やかな教育活動の日々の実践
- (3) 教育課程の編成、教育活動の諸条件を整備し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、確かな学力、生きる力を育む教育活動の取組
- (4) 教師の資質の向上と専門性を高める研修を推進し、施設・設備・教材等の活用を工夫し、一人一人の児童に即したわかる授業の実践
- (5) 学校・家庭・地域がそれぞれの役割と責任を果たし、共に信頼・協力し合う一人一人の子どもを大切にしたい、開かれた学校作りを推進
- (6) 学校内外の行事や、文書管理を整理し、教職員がいきいきと職務に専念できるよう、働き方改革を推進する

2 本校の特色

本校は、印西市本埜地区の西部に位置し、平成9年4月に千葉ニュータウン計画23住区に新設された。滝野中学校と建物が一体化しており、教室はオープンスペース、一部特別教室が共有施設になっている。滝野の街の中央に位置し、街のシンボリック存在になっている。生活の利便性と緑豊かな環境を求めて、関東近県から転居してきた家庭が多い。保護者の多くは会社員で、核家族化が進んでいる地域であり、教育に対する関心は極めて高い。

平成22年3月、1市2村合併のため、印西市立滝野小学校に学校名を変更した。平成28年度に、創立20周年を迎え、滝野中学校とともに記念行事を行った。新学習指導要領に基づいて、教育課程の全面実施がスムーズにいくよう、教育環境を整備していく。

3 研究の概要

(1) 研究主題

自分の考えをもち、仲間との交流を通して主体的に学ぶ学習のあり方
～考えを深めることができる児童をめざして～

(2) 研究概要（算数科）

- ・問題の解決に向けての見通しを持つことができる場を設定し、数学的な見方・考え方を働かせる自力解決・交流活動の場を設定する。
- ・校内授業研究会において、一人一授業を展開することで、指導力の向上に生かす。

牧の原小学校



校長 佐久間庸夫
 開校 平成27年
 学級数 16(2)
 児童数 503名
 職員数 県費25名
 市費 9名

(令和2年5月1日現在)

学校教育目標

心豊かで、心身ともにたくましい子どもの育成
 — 愛・希望・勇気を育む —

1 経営方針

「新しい時代を担う人間性豊かで、社会の変化に主体的に対応できる心身ともにたくましい子どもの育成」をめざし、学校教育の充実に努める。

(1) めざす子ども像

- やさしく思いやりのある子
- 進んで学び、よく考える子
- 体をきたえ、元気な子

(2) めざす教師像

子どもとともに生きる豊かな人間性と社会性のある教師

(3) めざす学校像

一人一人の力を最大限に伸ばし、子どもにとって楽しい学校

2 本校の特色

本校は北総線印西牧の原駅の北西部に位置し、牧の原地区・牧の台地区・草深地区の一部を指定学区としている。もともとは雑木林の山や湿地からなる地形であったが、千葉ニュータウン21住区の開発に伴い、原小学校の分離校として平成27年4月に開校した。駅周辺及び国道464号線沿道には商業

施設が建ち並び、自然との調和をめざした宅地開発により、人口増が進んでいる地域である。

保護者の教育に対する関心は高く、学校教育活動に対し大変協力的で、ともに学校を創ろうという高い意識が感じられる。

敷地の一角にある田を利用した稲作学習での食育活動を進め、一人一人に対する理解ときめ細やかな指導により学力向上を図っている。また、道徳科、縦割り班活動を中心に異学年での交流を活発に行うことで、心豊かな児童の育成に努めている。

3 研修の概要

(1) 研修テーマ

自分の考えをもち、進んで伝え合う児童の育成

(2) 研修内容

【国語科】

- ①文章の全体像をつかませるための課題設定。
- ②考えを共有できる場の設定。
- ③様々な言語活動の設定。

【道徳科】

- ①問題解決的な学習の流れになる指導過程の工夫。
- ②児童の気持ちを高めるための工夫



▲5年 田植え風景

本埜小学校



学校教育目標

「ふるさと本埜を誇りとし、次代を皆でたくましく生き抜く児童の育成」

1 経営方針

- ・6年間を見通した教科指導の充実, 学びの接続を重視した授業づくり
 - ・ふるさと本埜をテーマとした学校, 家庭, 地域の連携による特色ある学校づくり
 - ・心の教育 本埜小学校が子ども達に希望や夢を与えるのではなく, 子ども達が友達, 家族や地域の方々, 周りの人たちに夢や希望を与えられる人に育てること
- ① 読み書き, 計算を中心に基礎学力の確かな定着を図る。
 - ② 関係機関と連携し, 計画的に健康教育・安全教育・防災教育を推進する。
 - ③ 一人一人のニーズに合わせた特別支援教育を推進する。
 - ④ 指導力向上のための職員研修を充実させる。
 - ⑤ 地域や保護者と共に育てる教育環境づくりを推進する。
 - ⑥ 小規模校の環境を生かした特色ある学校づくりを推進する。
 - ⑦ 不祥事を防止し, 信頼される学校作りを行う。
 - ⑧ 働き方改革を実践し, 残務時間(一ヶ月)を45時間以内とする。

2 本校の特色

本校は千葉県北部の印西市にあり, 東京へ40km, 県都千葉市へ30km圏に位置する田園地帯にある。大正2年4月1日, 本郷村と埜原村の合併で本埜村となった。さらに, 平成22年3月23日, 1市2村の合併で印西市となった。



校長	陣内 孝浩
開校	令和元年
学級数	6 (2)
児童数	91名
職員数	県費 13名 市費 4名

(令和2年5月1日現在)

学区は, 印西市の北東部に位置し, 丘陵地帯と谷津地帯に古くから住んでいる住民がほとんどである。学区は旧本埜村全域で広く旧印西市と旧印旛村の学区に接しており, 児童は徒歩とスクールバスで登下校している。専業農家は少なく兼業農家がほとんどであり, 地域, 保護者の教育についての関心は高く, 歴史ある学校を大事にしようとする気風が代々引き継がれている。学校行事や交流活動, 美化活動についても協力を惜しまない。地区ごとの結びつきが強く, PTA活動も円滑に進められている。

3 研修の概要

(1) 研修テーマ

感動し, 他人を幸せにすることに喜びを感じる
生き方を目指す道徳の時間の研究
～子どもたちを感動させ, 思いや考えを伝え合う指導方法の工夫を通して～

(2) 研究仮説

児童の心に響き, 心を揺さぶり, 深い感動を与える授業を工夫すれば, 一人一人の心に刻まれ, 将来必要なときによみがえるとともに, 判断の材料や心の支えとなるなど, 生活の中で試されながら児童の価値観として形づくられるであろう。

(3) 研究の手立て

- ①発問の工夫・吟味 ②考え, 議論する場と方法工夫③活動に応じた適切な支援

印西中学校



校長 鈴木 祥仁
 開校 昭和33年
 学級数 9 (2)
 生徒数 293名
 職員数 県費 25名
 市費 3名

(令和2年5月1日現在)

学校教育目標

自立 貢献

1 経営方針

未来を生きる子ども達に「豊かな人間性」と「たくましく生きる力」を養うことは、教育に託された大きな使命である。義務教育の最終段階としての中学校に求められていることは、生涯学習の基礎作りとともに、新しい時代を担う、健康で知性と徳性を備え、変化する社会を主体的に生きる力が身に付くよう、生徒の自立と社会貢献を促す教育である。

2 本校の特色

本校は昭和33年に大森中、木下中、永治中の統合により町立印西中学校として開校し、一昨年度、創立60周年を記念する式典を開催した。市内随一の広い校地には、一年を通して木々の緑と草花があふれ、落ち着いた環境の中で、生徒は明るく元気に生活している。開校以来文武両道を目指し、学習指導と部活動等の課外活動の充実に力を注ぎ、市内の中心校としての役割を果たしてきた。特に学習指導や保健体育、体力づくり等の研究では、国や県から何度も表彰を受けている。また、平成21年度は、永年地域と共に行ってきた美化活動や資源回収活動が高く評価され、「3R（リデュース・リユース・リサイクル）推進功労者等表彰事業」で文部科学大臣より表彰された。

卒業生は、1万人を超え、各界の第一線で活躍する人材を輩出している。

本年度は、学力向上を図ることに力を入れると共に、一人一人の子どものニーズに応える学校教育活動を充実させるため、“学校生活向上プラン2020”を策定し、組織的、実践的な学校経営を進めている。

3 研修の概要

(1) 研究テーマ

基礎的・基本的な知識及び技能を活用して、自ら課題を解決しようとする力を育てる学習指導のあり方

(2) 研修内容

- ①主体的・対話的で深い学びの実践
- ②全教科・領域の授業研究を行う（全職員）
- ③全校同一題材で道徳を行う（学期1回）
- ④若年層教員を育てる研修を行う（全職員）
- ⑤不祥事防止研修を行う（全職員）
- ⑥防災教育に関する研修を行う（年1回）



▲運動会 応援合戦

船穂中学校



学校教育目標

夢と希望と感動のある学校

1 経営方針

- (1) 生徒一人一人の理解に徹し、生徒から学び生徒の夢や希望の実現を図る。
- (2) 教育に対する情熱を持ち、わかる授業を追究し生徒の学習意欲を高め、学力の向上を図る。
- (3) 健康で、情操豊かな優しさとたくましさを持った生徒を育てる。
- (4) 保護者、地域とともに歩む、安全で信頼される開かれた学校づくりを推進する。

2 本校の特色

本校は、昭和22年開校以来、創立74年目を数える歴史と伝統のある中学校である。

学区には田畑も多く、緑豊かで、たいへん自然環境に恵まれている。教育目標である「夢と希望と感動のある学校」のもと、地域に根ざし、地域に開かれた、特色ある学校づくりに取り組んでいる。特に「あいさつ運動」は、学校と保護者・地域が一体となり取り組んでおり、本校の良き伝統となっている。また、学校行事への取組は積極的で、感動場面を創出するパワーを抱いている。運動会や合唱コンクールでは、地域の方からも高い評価をいただいている。



校長 磯 昌稔
 開校 昭和22年
 学級数 6(2)
 生徒数 181名
 職員数 県費 21名
 市費 5名

(令和2年5月1日現在)

3 研修の概要

(1) 研修テーマ

自主的・自治的活動のできる生徒の育成
 ～基礎・基本の充実と思考力・表現力の育成を通して～

(2) 研修内容

- ① 教科毎に基礎基本を充実するための方策を明らかにし、「学び合い・話し合い学習」を意図的に行う。
- ② 授業の中でめあてを持たせ、振り返る活動を取り入れることで、思考力を育成する。
- ③ 指導体制の工夫を図り、「学び合い・話し合い学習」を推進し、生徒個々にきめ細かく対応することで学習意欲を高める。
- ④ 「自学」の活用を図り、家庭学習の方法を身につけさせる。



▲朝のあいさつ運動

木刈中学校



学校教育目標

心身ともにたくましく 自ら学び
共に生きる生徒
—笑顔・感動, はつらつ木刈—

1 経営方針

- 授業力の向上を図り, わかる授業, 力をつける授業を展開する。
- 心の教育の充実に努め, 生徒の道徳的実践力や自治的活動能力の育成を図り, 思いやりの共同体をめざす。
- 基本的生活習慣の定着や危険予知能力を高め, 健康管理と体力増進の意識を高める。
- 組織力の向上を目指し, 目的・目標・内容と手順を明確にし, 全体で取り組む指導体制を構築する。
- 保護者や地域と連携協力し, 地域社会の一員としての自覚を高め責任感を養う。

2 本校の特色

昭和59年に開校し, 本年度で37年目を迎える。千葉ニュータウン中央駅の北側に位置し, 学区は, 北総線と大型ショッピングセンター街を挟んで, 南北に広がる。平成29年度から新たに永治地区が学区に加わり, 開校当初より学区面積が約4倍に広がった。今後, さらに生徒数が増加することが予想される。

生徒は学習や部活動に熱心に取り組み, 学校行事への参加意欲は旺盛である。「体育祭」や「秋陽祭・合唱コンクール」に全校を挙げて取



校長 花安 利章
開校 昭和59年
学級数 18 (2)
生徒数 667名
職員数 県費38名
市費 8名

(令和2年5月1日現在)

り組んでいる。生徒の約90%が部活動に加入し, 心身の成長を目指して意欲的に活動している。また, 校外でも興味・関心を持った活動に積極的に参加し, 技能や体力の向上を図っている。

生徒会活動の一つとして, 平成13年度生徒総会で制定された生徒目標「笑顔であいさつ・ひびけ歌声・活かそう時間・心で清掃」を掲げ, 全校生徒で一生懸命に取り組んでいる。学年末には各部門に秀でた生徒に対して, 生徒推薦により「木刈の星賞」を授与している。

3 研修の概要

(1) 研究主題

「確かな学力を身につけ,
豊かな心を持つ生徒の育成」
～主体的に考え
行動させるための授業実践を通して～

(2) 研修内容

- 確かな学力育成
 - ・共通した授業規律, 学び方の指導
 - ・わかりやすい授業の工夫・実践
 - ・指導力の向上
- 豊かな心の育成
 - ・読書活動の習慣化
 - ・学年・学級経営の充実
 - ・主体的な態度, 協調性, 自己有用感の育成
- ◎本年度の取り組み
 - ①個人・集団の能力の育成を図り, 豊かな心を育む指導方法を各教科・領域で行う。
 - ②教科・領域の指導力の向上を目指す。
 - ③授業の流れの確立

小林中学校



校長 白井 昌章
 開校 平成2年
 学級数 6(2)
 生徒数 154名
 職員数 県費 17名
 市費 2名

(令和2年5月1日現在)

○JRC活動

平成5年に青少年赤十字採用校となり、以来赤い羽根街頭募金や通学路のゴミ拾いなど福祉・奉仕活動に取り組んでいる。



◀ JRC活動

学校教育目標

自ら学び心豊かでたくましく生きる生徒の育成

【校訓】 一生懸命はかっこいい

1 経営方針

- (1) 生徒一人一人を大切にしたい、明るく活気ある学校づくり
- (2) 学力向上を目指す学校づくり
- (3) 安全・安心を図れる学校づくり
- (4) 保護者・地域に信頼される学校づくり

2 本校の特色

平成2年度に開校し、本年度31年目を迎える。近くには小林牧場があり、自然豊かな環境の中にある。古くからある地区と新しく開発された地区の住民がうまく融合し、地域の結びつきは強い。特に「さわやかコミュニティ推進委員会」や「小林住みよいまちづくり会」など地域の組織がしっかりと機能し、地域行事も盛んに行われている。保護者・地域住民とも学校に協力的な地区である。

○学習の手引き作成と活用

5教科で学習方法のガイダンスとなる学習の手引きを作成し、全校生徒に配付するとともに説明会を実施している。学習方法のポイントを理解し、自主的、持続的に学習しようとする意欲の向上を図っている。

3 研修の概要

(1) 研究主題

主体的に学び、協働して課題に取り組む生徒の育成

(2) 研究・研修の重点

- ①基礎・基本の確かな習得
 - ・朝学習（ドリル）の実施
- ②家庭学習の充実
 - ・学習の手引きの活用
- ③道徳教育の充実
 - ・授業公開・授業研修会の実施
- ④「主体的・対話的で深い学び」の実現
 - ・新学習指導要領に係る移行措置への対策と授業改善



▲道徳科校内授業研修

原山中学校



校長	篠塚 俊満
開校	平成2年
学級数	9 (2)
生徒数	289名
職員数	県費 25名 市費 4名

(令和2年5月1日現在)

し、「挨拶運動」や「無言清掃」など自治的活動に取り組んでいる。年2回の地域ボランティア「全校古紙回収」は地域に根付き始めている。

また、地域との連携を深める教育に主眼を置き、例年、中学校区の2小学校（内野小・原山小）PTAと協力し、年3回の防犯パトロールを行っている。地域との連携・融和を持続しつつ、学校と保護者、地域の協力体制ができています。

学校教育目標

「夢の実現に向けて豊かな心とたくましく
生きぬく力を持つ生徒の育成」
～SCSSTを通して～

1 経営方針

「Safety」いじめのない安全・安心な学校
「Courtesy」挨拶の素晴らしい学校
「Show」授業・歌声・行事の充実した学校
「Service」清掃や奉仕活動に進んで取り組む学校
「Thanks」ありがとうが溢れる学校
を合言葉に生徒と教員が一丸となり夢のある学校創りを目指している。

2 本校の特色

平成2年に船穂中学校より分離・開校し、令和元年に創立30年の節目を迎え、新たな合言葉を掲げ31年目を始動した。

学区は、千葉ニュータウンの内野・原山・戸神台・中央南・泉・武西学園台の一部の6地区からなる。高層集合住宅に囲まれているが、千葉県立北総花の丘公園に隣接し緑が多く自然環境に恵まれている。

創立以来、生徒の主体的な活動を大切にしており、「挨拶・歌声・行事・奉仕」を生徒会の伝統と

◀ 全校古紙回収

年2回（1・2学期）、生徒全員で中学校区の各家庭より古紙（資源）回収を行う。



3 研修の概要

(1) 研修テーマ

「基礎・基本の定着を図り、
表現力を高める学習指導の在り方」
～主体的・協働的な学習を通して～

(2) 研修内容（概要）

- ①市教研授業研修会公開校研修参加
- ②校内授業研修会（各教科・領域）
- ③北総教育事務所長訪問（管理運営）
- ④不祥事根絶・モラルアップ研修

西の原中学校



学校教育目標

社会に対応し、心豊かにたくましく生きる
若者の育成

～常識と良識を持った生徒の育成～

1 経営方針

学校は子どもの学習の場であり、人間関係を体験する場でもある。そこで、全職員が「生徒一人一人の良さを引き出し、それぞれが最大限に伸びるように支援する。」とともに、「すべての生徒が生き生きと学校生活を送れるようにする。」ことを念頭に、一体となって指導にあたる。

2 本校の特色

本校は平成6年度に開校し、今年で27年目を迎える。公立中学校では県下に数少ない制服を定めない中学校で、生徒は私服で授業に参加している。校則等もなく、生徒は「西の原中学校の生徒としての『常識と良識』」を意識し、楽しく中学校生活を送っている。また、学区は静かな住宅地域で、生徒の多くは中高層の集合住宅に住んでいるが、近年は戸建て住宅も増えてきている。ここ数年、地域の開発が急ピッチで進み、学校の周辺にも大型の商業施設がいくつも進出している。



校長	片岡 正行
開校	平成 6年
学級数	15 (2)
生徒数	527名
職員数	県費 34名 市費 6名

(令和2年5月1日現在)

本校は「キャリア教育」の取り組みとして、1年生は地域の方々を招いての高齢者交流体験、2年生は職場体験、3年生は自己の生きる道を考える学習を行っている。

また、学力向上にむけて、数学科で少人数学習を実施している。

3 研修の概要

(1) 研修テーマ

基礎・基本の確実な定着を図り、主体的に学ぶ生徒の育成

(2) 研修内容

- ①デジタル校務システム研修
- ②学級経営研修
- ③校内授業研修（全教科）
- ④特別支援教育研修
- ⑤道徳授業研修（全校道徳）
- ⑥人権教育研修
- ⑦モラルアップ研修
- ⑧アナフィラキシーの理解とエピペン研修
- ⑨いじめ防止対策・教育相談等研修



▲体育祭

印旛中学校



学校教育目標

自ら学ぶ意欲と豊かな心を育み、主体的に行動できる生徒の育成

1 経営方針

- (1) 授業力の向上
- (2) 進路指導の充実
- (3) 生徒指導の充実
- (4) いじめや不適応の解消
- (5) 生徒会、部活動の活性化
- (6) 教育環境の整備
- (7) 学区連携事業の推進
- (8) 教職員の働き方改革の推進

2 本年度の重点目標

- (1) 学力の向上を図る
- (2) 豊かな心を育成する
- (3) 生徒主体の活動を推進する

3 本校の特色

本校生徒367名は、地域の期待と温かい愛情に支えられ、落ち着いた中学校生活を送っている。

体育祭、合唱コンクール、小・中交流会、特別支援学校との交流会等の学校行事に生徒が全力で取り組むことで本校の伝統を作ってきた。

また、本校は生徒の9割以上が部活動に参加し、どの部活動も県大会出場やコンクール・作品展等を目指して、日々努力を重ねている。学校生活では生徒の主体的な行動を尊重し、生徒の活動を生



校長	三浦明久
開校	昭和50年
学級数	11(3)
生徒数	367名
職員数	県費 28名
	市費 5名

(令和2年5月1日現在)

かした学校づくりを進めている。特に、生徒会では「明るい挨拶、響く歌声、自ら清掃」を3本柱に、生徒会本部、中央委員会、専門委員会の中で、活発な話し合いが行われている。

4 研修の概要

(1) 研究主題

生徒が学習に意欲をもち、主体的に取り組むにはどうすべきか

(2) 研修内容

- ①評価を工夫し、生徒が自ら具体的な学習課題を見つけられるようにする。
- ②授業形態を工夫して、学習課題を進めることにより、主体的な取組を図る。
- ③授業のまとめやレポートの考察などで思考の流れを意図的につくり、思考力・判断力を身につけることができるようにする。
- ④各教科で言語活動を工夫し、思考力・判断力・表現力を身につけることができるようにする。
- ⑤家庭学習を習慣化して、学力の定着を図る。



▲2学年 自然教室 カヌー体験

本埜中学校



校長 渡邊 信
 開校 昭和22年
 学級数 3(2)
 生徒数 39名
 職員数 県費 13名
 市費 2名

(令和2年5月1日現在)

学校教育目標

豊かな心を持ち、一人一人の生徒が光りがやく学校

1 経営方針

【めざす生徒像】

- ① 目標達成のために努力・工夫ができる生徒
- ② 仲間と共に困難に立ち向かう生徒
- ③ 自分も他の人も大切にできる生徒
- ④ 良き伝統(あいさつ・歌声・清掃)を継承・発展させる生徒
- ⑤ 健康的な生活に心掛けることができる生徒

2 本校の特色

- ① 聞くこと考えることのメリハリをつけ、獲得した知識や技能を活用する授業を展開し、思考力・判断力・表現力を育成する。
- ② キャリア教育の充実(体験)を図る。
 - ・1年…地域の産業を知る・職業調べ(印西・本埜を知る)
 - ・2年…印西市生き生き体験(職場体験) 夢の懸け橋プロジェクト(働いている人から話を聞く)
 - ・3年…主体的な進路選択を目指した高校調べ・訪問、進路決定、進路体験会

③ 良き伝統(あいさつ・歌声・清掃)が日々の活動で実践され、生徒一人一人の誇りとなっている。

・あいさつで心を開く } 委員会活動の中
 ・歌声で心を結ぶ } 心として、生徒
 ・清掃で心を鍛える } が主体的に実践。

④ 道徳教育と行事や諸活動との関連を明確にし、「人間としての生き方」の自覚を促す。

3 研修の概要

(1) 研修テーマ

基礎・基本の定着を図り、生徒一人一人の自主的な学習態度の育成を図るための工夫はどのようにしたらよいか。～学ぶ楽しさを見いだすための授業・教材の工夫～

(2) 研修内容

- ① 基礎・基本を定着させるための指導を教科共通で取り組み、知識・技能の習得を徹底することで、理解力の向上を図る。
- ② 学力推進委員会を中心に、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、教材・教具の開発を組織的に取り組むことで、学習成果の向上が期待できる。
- ③ 教科・全領域で、また、読書活動(朝読書・ビブリオバトル等)を通して「言語活動の充実」に取り組み、思考力・判断力・表現力の向上を図る。

滝野中学校



校長 加藤 知巳
 開校 平成9年
 学級数 8(2)
 生徒数 262名
 職員数 県費22名
 市費 4名

(令和2年5月1日現在)

学校教育目標

次代を担う、豊かな心とたくましく
 生きる力を持った生徒を育成する

1 経営方針

【めざす生徒像】

- (1)自ら進んで、粘り強く学習する生徒
- (2)気持ちよく挨拶できる心豊かな生徒
- (3)健康でたくましい体力作りのできる生徒

2 本校の特色

【重点目標】

- (1)安全・安心な教育環境・学校作りに努め、健康な身体を育むとともに、防災意識を高め、実践的な安全教育を行う。
- (2)「生きる力」を育むために、学力向上に向けて、一人ひとりに基礎・基本の確実な定着を図るための授業を実践するとともに、応用・発展的な内容も提供する。
- (3)心の教育の充実のため、人権意識や共生の考え方に基づいていじめ防止に努め、道徳の時間の充実を図るとともに、生徒会活動・読書活動・体験的な学習を計画的に行う。
- (4)若年層教員の育成に取り組み、全職員で授業研修の機会を確保して資質や能力の向上に努める。
- (5)学校改善を図るため、学校評価・業績評価を適切に行い、教務主任や学年主任等の教職員を主要ポストに配置して、参画型の学校経営を積極的に行う。

(6)特別支援教育への理解を深め、特別支援学級および通常学級に在籍する支援を要する生徒への、個に応じた指導の徹底を図る。

(7)家庭・地域社会との連携により、地域の特性を生かした教育を推進するとともに小中の連携による教育効果の向上を目指し、学習規律・生活ルールへの反映、相互授業・行事参観等を行い、9年間を見通した子どもの育成を行う。

(8)全職員に学校における働き方改革を進める目的の意識付けを図るとともに、学校行事の精選や会議のスリム化、業務の効率化等を積極的に図って、推進プランに掲げられた目標に近づけられるようにする。

3 研修の概要

(1)研修テーマ

「基礎・基本の定着を図り、学びがいを感じさせる指導はどうあるべきか」
 ～全ての生徒がわかる授業・ユニバーサルデザインの授業を目指して～

(2)研修内容

- ①若年層の授業力向上を目指し、各教科・領域での授業研修の充実を図る。
- ②個や小グループ、集団などの学習形態を適切に用い、学習内容に合わせた言語活動を工夫する。
- ③ICTの機器の活用等、全ての生徒にわかりやすい指示や資料の提示を工夫する。

瀬戸幼稚園



園長	真部 貴子
開園	昭和51年
学級数	2(0)
園児数	46名
職員数	県費 0名 市費 7名

(令和2年5月1日現在)

り、自分らしさや自分の思いを存分に発揮して遊んでいる。印旛中学校区の小・中学校との交流もさかんで、連携を図っている。7月に行われる夏祭りでは、準備の段階からPTAの役員、係の保護者の方々が積極的に関わり、盛大に行われる。このように保育の実際の様子について保護者に理解してもらい、成長の喜びを得られるよう連携を増すための活動を多く取り入れている。

教育目標

物事に自ら関わり、自己充実していくことのできる子どもの育成

1 経営方針

- ①幼稚園教育要領の基本方針にのっとり、本園幼児の実態を踏まえた教育を推進する。
- ②幼児の心身の調和的発達を図り、健全な心身の基礎を養うようにする。
- ③「健康」「人間関係」「環境」「言語」「表現」領域を調和的に教育課程に位置づけ、豊かな情操や道徳性を育て、自立できるようにする。
- ④指導にあたっては、幼児一人一人の発達段階に即して個別化を図る。
- ⑤園内の環境を整備し、適切な指導を行えるようにする。
- ⑥家庭との連携を密にし、家庭との協力と相まって教育効果をあげるようにする。

2 本園の特色

住民の幼稚園への関心が高まり、幼稚園教育の重要性の認識から昭和51年4月に開園する。

本園は、自然環境に恵まれ草花やザリガニや昆虫などと触れ合う機会が多く、命の大切さについて気づき学ぶ場が多い。

また、いろいろな遊びを通して他の子とかかわ

3 研修の概要

(1) 研修テーマ

『身近な環境に主体的に関わり、様々な活動を楽しむ』
～友達と心を通わせ、互いの良さを認め合える子をめざして～

(2) 研修内容

- ①幼児の実態把握と幼児理解に努め、教師の適切な援助のあり方を追求。
- ②友達とのつながりを深め、協同性を伸ばす活動の追求及び設定。
- ③カリキュラム・マネジメントを通じた教師間の共通理解と保育の資質向上。



▲植物の栽培



▲自分を表現(壁面製作)

もとの幼稚園



教育目標

豊かな感性を持ち、自主的に行動できる子どもの育成

1 経営方針

- (1) 幼児の主体的な活動を促し、幼児にふさわしい生活が行われるように努める。
- (2) 遊びや生活を通して幼稚園教育要領の示すねらいが総合的に達成されるように努める。
- (3) 幼児一人一人の特性に応じ、発達に即した指導を行うように努める。

2 本園の特色

旧本埜村に平成7年、住民の強い要望で村立の幼稚園（3年保育）として開園。開園当初は3クラスであったが、平成9年、ニュータウンの街開きにより入園希望者が増え、第2園舎を増築。園児定員数も315名となる。

広い園庭と豊かな自然に恵まれ、遊びからの「体験」を通して感じる自然との触れ合いを大切にしている。

幼児期にたくさん遊ぶことでいろいろなことに興味・関心を持つので、多くの経験ができる場を提供できるように心がけている。

当園は3年保育のため、異年齢児とも交流をもち、5歳児が3、4歳児の面倒をみるなど、優



園長	板倉 清美
開園	平成7年
学級数	9（0）
園児数	235名
職員数	県費 0名 市費 22名

（令和2年5月1日現在）

しさや思いやる気持ちが育ち、責任感も培われる。多くの友達とかかわることで楽しさを共有し、その中で自分の思いを伝え、相手の気持ちも理解しようとする心も育つように援助している。

年長組のカリキュラムでは、遊びを通して英語に親しめる活動を取り入れている。英語を身近に感じてもらい、国際的な感覚を身につけてほしいと願う。

保護者会活動がとても積極的で、幼稚園の運営に参加・協力する体制が整っており、子どもの成長を共に喜びあうことができている。

3 研修の概要

（1）研修テーマ

人とかかわりを通して主体的に行動する子どもを育てる。

（2）研修内容

- ① 幼児の発達を理解し幼児同士の思いや考えをつなげられるような援助の仕方を考える。
- ② 友達と互いの良さを認め合い、生活や遊びを意欲的に進めていくための環境構成を考える。



▲ 通園路



▲ 廊下の壁面